

第2章 島原市の食育の現状

第1節 島原市の概況

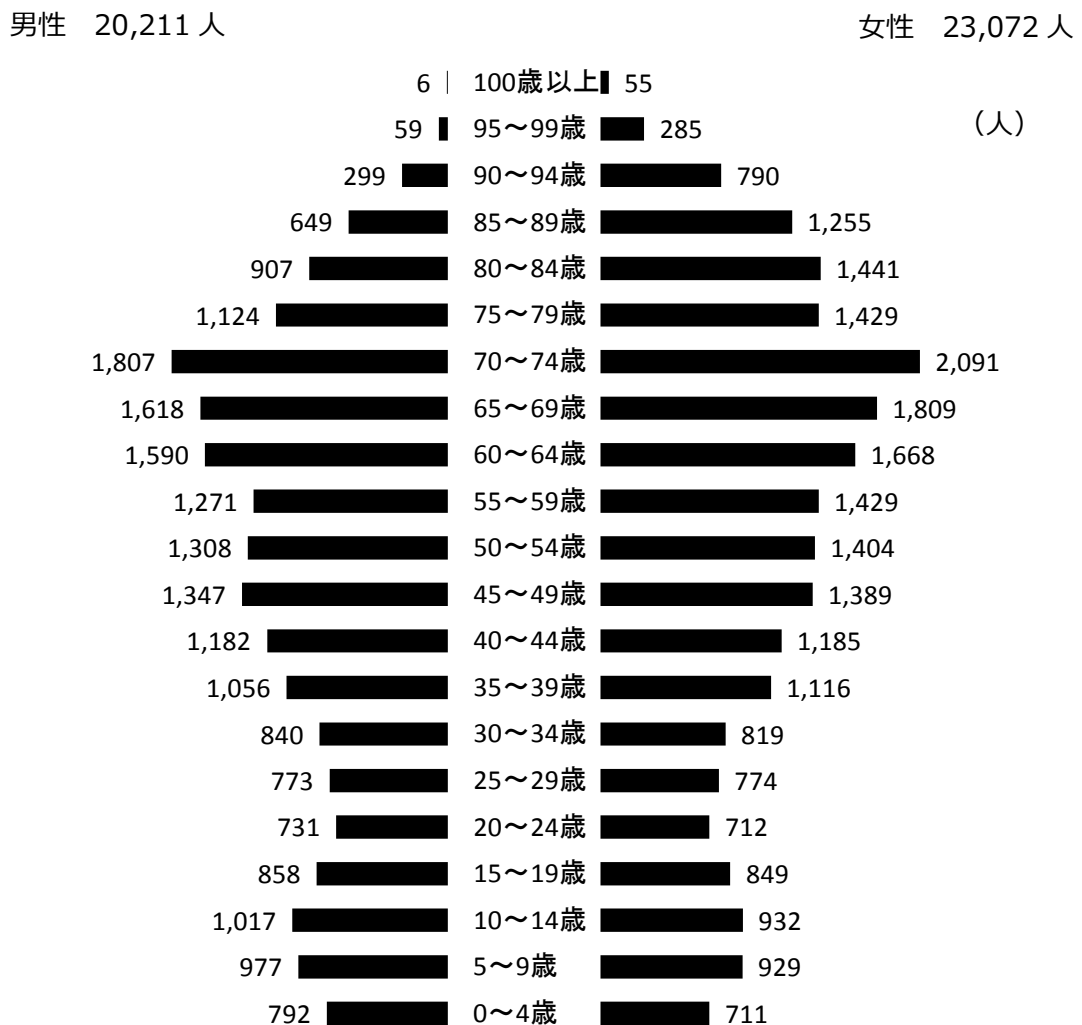
1 人口・世帯に関すること

(1) 人口構造

令和4年3月末時点での人口構造をみると、人口が最も多い年齢層は、「70～74歳」であり、高齢化が進行することが考えられます。

また、人口の最も少ない年齢層は「20～24歳」です。進学や就職により市外へ流出していることが考えられます。

図表 本市の人口構造



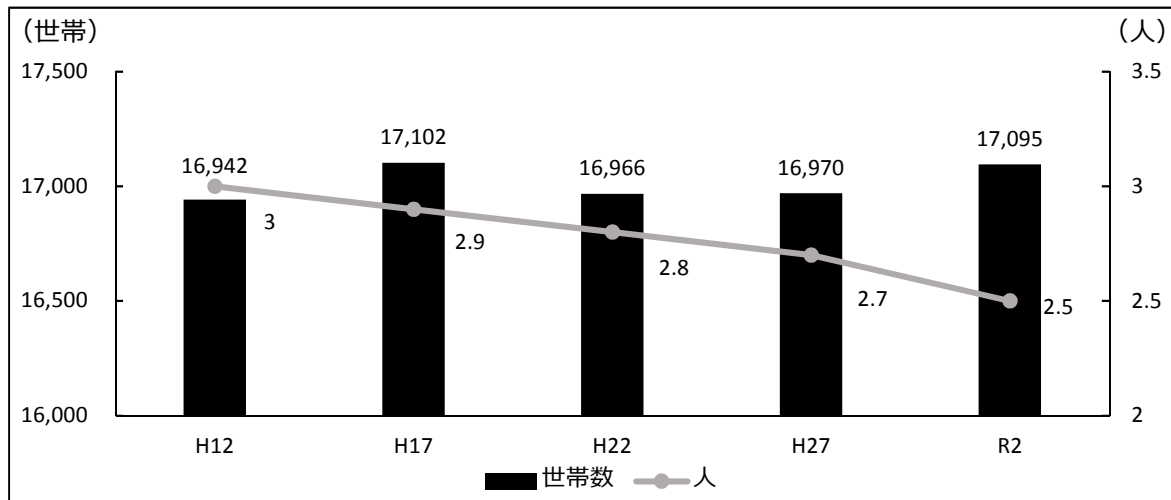
資料：住民基本台帳（令和4年3月末現在）

(2) 世帯数及び1世帯あたりの世帯人員の推移

平成12年以降の世帯数の状況を見ると、平成17年の17,102世帯をピークにほぼ横ばいに推移し、令和2年時点の世帯数は17,095世帯となっています。

また、令和2年の1世帯あたりの世帯人員は2.5人となっており、核家族化が進行していることがうかがえます。

図表 本市の世帯数及び1世帯あたりの世帯人員



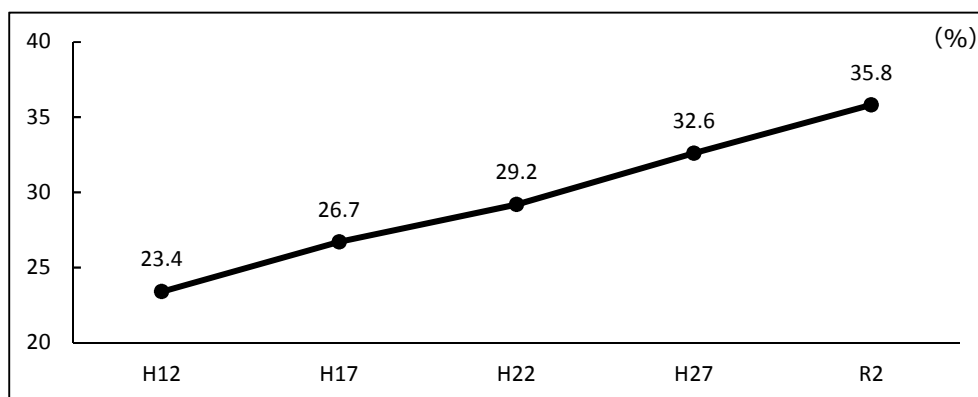
資料：国勢調査

(3) 高齢者の現状

① 高齢化率

平成12年以降の[※]高齢化率は年々増加しており、令和2年の高齢化率は35.8%で、平成27年から5年間で3.2ポイント増加しています。

図表 本市の高齢化率



資料：国勢調査

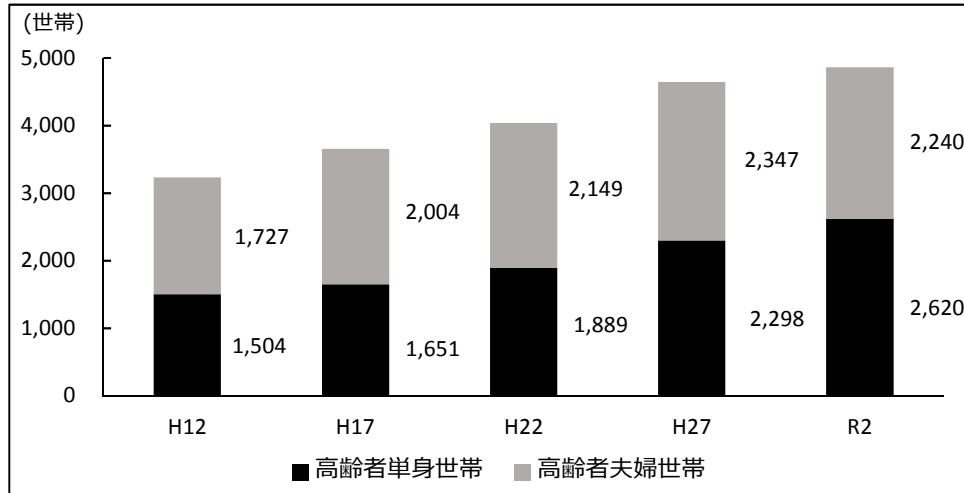
※については用語集（75ページ）に記載しています。

② 高齢世帯の状況

平成12年以降の高齢世帯の状況を見ると、高齢化率の増加とともに、高齢者のみの世帯が増加しています。

特に高齢者単身世帯は年々増加しており、令和2年は2,620世帯で高齢者のみの世帯の半数以上を占めています。

図表 本市の高齢世帯の状況

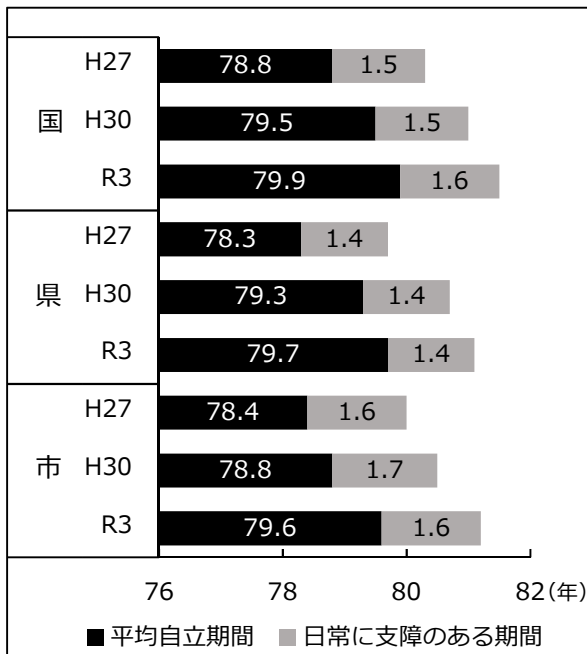


資料：国勢調査

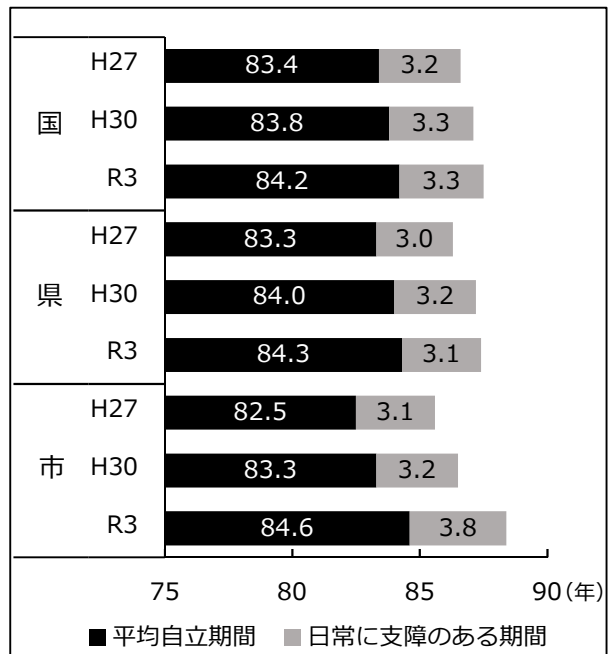
③ 平均自立期間

令和3年の^{*}平均自立期間は、男性では、平成27年より1.2年伸びていましたが、国や県と比べ短い状況です。また、女性では、平成27年より2.1年伸びており、国や県と比べ長い状況です。

図表 平均自立期間（男性）



図表 平均自立期間（女性）



資料：国保データベースシステム（KDB）

^{*}については用語集（77ページ）に記載しています。

第2節 食育に関する現状

本計画の中間評価を実施するにあたり、市民の食育に関する意識や食生活の状況を把握するために、15歳から84歳までの市民4,000人及び小学5年生と中学2年生を対象に食育に関する意識調査を行いました。また、関係機関等へ食育推進の状況について調査を行い、調査の結果から食育の取り組みの現状について施策ごとにまとめました。

また、国や県が公表している統計結果および令和元年に実施した食育に関する意識調査等と比較し、分析を行いました。

〈調査概要〉

1 市民

- ① 調査実施期間 令和4年5月16日～令和4年6月3日
- ② 調査対象者 15歳～84歳の市民4,000人（無作為抽出）
- ③ 回収数（回収率） 1,476人（36.9%）
- ④ 有効回答数※ 1,358人 ※年齢及び性別の回答があるものを有効回答とした

性別 年代	男性			女性			性別・年齢 不明
	対象者数	回収数	回収率(%)	対象者数	回収数	回収率(%)	回収数
10代	76	14	18.4	84	23	24.7	118
20代	189	31	16.4	186	61	32.8	
30代	235	66	28.1	249	79	31.7	
40代	267	52	19.5	298	108	36.2	
50代	304	80	26.3	342	135	39.5	
60代	367	120	32.7	392	166	42.3	
70代	347	148	42.7	430	184	42.8	
80代	99	35	35.4	135	56	41.5	
合計	1,884	546	29.0	2,116	812	38.3	

2 小学5年生及び中学2年生

- ① 調査実施期間 令和4年5月24日～令和4年6月3日

小学5年生			中学2年生			計		
対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率
382	379	99.2%	327	325	99.4%	709	704	99.3%

3 保育所・認定こども園・学校の食育の推進に関する状況調査

- ① 調査実施期間 令和4年5月6日～令和4年5月28日
- ② 調査対象 市内保育所・認定こども園27園、市内小中学校14校

4 食育推進に関する事業実施状況調査

- ① 調査対象 庁内食育関係課10課、食育推進関係機関等17機関

施策 1

地域・学校・行政・その他の関係機関における食育の推進

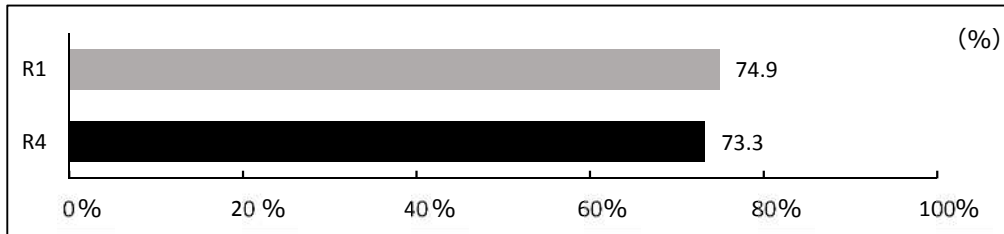
第3次島原市食育推進計画の施策1では、「食育に関心のある人の増加」「食育の取り組み活動に参加する人の増加」を目標に取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
食育に関心のある人の増加	74.9%	73.3%	C	85%以上
食育の取り組み活動に参加する人の増加	13.2%	2.4%	D	15%以上

(1) 食育への関心の状況

食育に関心がある人は73.3%で、令和元年の74.9%より1.6ポイント減少していました。

図表 食育への関心の状況

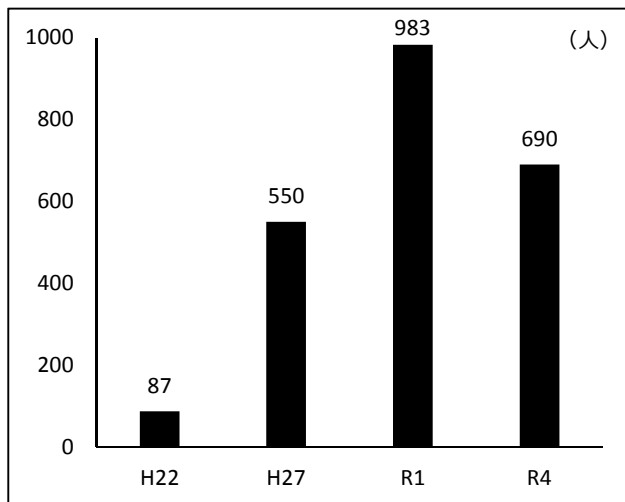


資料：食育に関する意識調査

(2) 食育に関わるボランティアの状況

食育に関わるボランティアの人数は食育推進計画策定時（平成22年）から増加していましたが、令和3年度の婦人会連絡協議会の組織改変により令和4年度のボランティアの人数は減少していました。

図表 食育に関わるボランティア数



ボランティアの団体数

【平成22年度】

※食生活改善推進員協議会

【平成27年度】

食生活改善推進員協議会

婦人会連絡協議会

【令和元年度】

食生活改善推進員協議会

婦人会連絡協議会、母子寡婦福祉会

民生委員児童委員協議会

【令和4年度】

食生活改善推進員協議会

森岳女性会、母子寡婦福祉会

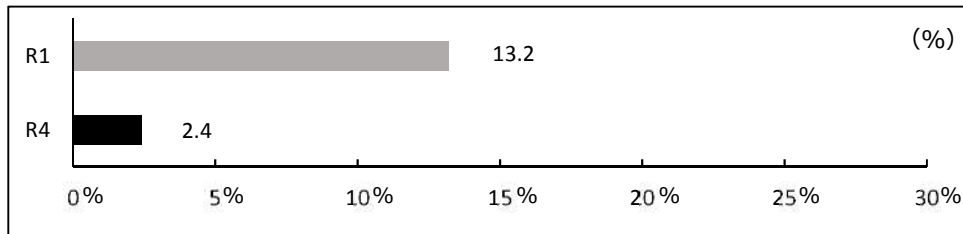
民生委員児童委員協議会

※については用語集（76ページ）に記載しています。

(3) 食育の取り組み活動への参加状況

食育の取り組み活動への参加状況については、食育に関する講座やイベントに参加したことがある人は2.4%で、令和元年の13.2%より10.8ポイント減少していました。

図表 食育の取り組み活動への参加状況



資料：食育に関する意識調査

(4) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

食育の普及啓発については、継続して取り組みが行われていました。食育に関するイベントや講座の開催については、新型コロナウイルス感染症の流行により、イベントが中止となり、食育の取り組み活動の場が減少していました。食育推進の体制整備については、取り組みが継続されていました。

【取組実績】

対策	事業名	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数
食育の普及啓発	広報しまばらでの食育の普及	保険健康課	1	-	3	-	1	-
	市ホームページにおける食育の普及		1	-	1	-	-	-
食育に関するイベントや講座の開催	食育フェスタ	保険健康課 食生活改善推進員協議会	1	111	中止		中止	
	健康しまばら福祉まつり	保険健康課 医師会・歯科医師会	1	30 (団体)	中止		中止	
	糖尿病予防のつどい	栄養士会 食生活改善推進員協議会	1	96	中止		中止	
	【新】食育講座	保険健康課					1	26
食育推進の体制整備	食育推進会議	保険健康課	2	35	-	-	1	17
	食生活改善推進員養成講座		5	28	5	20	-	-
	食生活改善推進員育成事業		11	559	15	228	15	266

施策2 郷土料理や地域の食文化の継承

第3次島原市食育推進計画の施策2では、「家庭で郷土料理を作る人の増加」を目標に取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
家庭で郷土料理を作る人の増加	75.1%	75.7%	C	77%以上

(1) 郷土料理の食経験の状況

食経験が多い郷土料理は、市民は「手延べそうめん」「具雑煮」、小学5年生・中学2年生では「六兵衛」「具雑煮」でした。一方少ない郷土料理は、「ガンバの湯引き」「がねだき」「いぎりす」でした。郷土料理によって食経験には差がありました。

図表 郷土料理の食経験

		食べたことがある (%)		食べたことはないが料理は知っている (%)		知らない (%)	
		R1	R4	R1	R4	R1	R4
市民	具雑煮	95.1	96.1	3.0	2.3	0.4	0.5
	六兵衛	86.0	82.9	8.7	10.7	2.6	3.8
	ガンバの湯引き	77.5	77.2	10.9	12.2	7.9	7.5
	がねだき	71.8	70.2	12.5	13.3	11.7	12.6
	いぎりす	80.5	76.7	11.5	14.5	5.5	6.3
	手延べそうめん	97.5	98.2	0.8	0.7	0.2	0.2
	寒ざらし	91.4	91.7	4.9	5.1	1.0	0.7
	べったらもち	83.8	81.4	5.6	6.0	7.8	9.9
小学5年生	具雑煮	89.0	79.9	5.3	8.7	4.5	11.3
	六兵衛	93.0	86.8	3.1	5.0	2.5	8.2
	ガンバの湯引き	16.0	19.3	17.4	22.2	64.9	58.6
	がねだき	11.2	9.8	14.6	15.3	72.2	74.9
	いぎりす	11.2	13.2	19.4	23.0	67.7	63.9
	手延べそうめん	72.2	71.8	8.7	12.9	17.1	15.3
	寒ざらし	—	77.3	—	10.8	—	11.9
	べったらもち	39.9	35.4	18.0	17.7	40.4	47.0
中学2年生	具雑煮	97.2	97.5	1.4	1.8	1.1	0.6
	六兵衛	97.2	98.5	1.1	0.9	1.4	0.6
	ガンバの湯引き	26.5	21.8	25.4	32.0	46.4	46.2
	がねだき	24.0	12.3	14.4	18.2	59.9	69.5
	いぎりす	21.5	18.5	23.2	37.2	53.6	44.3
	手延べそうめん	87.8	81.8	5.5	10.5	6.1	7.7
	寒ざらし	—	87.7	—	8.0	—	4.3
	べったらもち	55.0	44.6	17.7	22.8	25.7	32.6

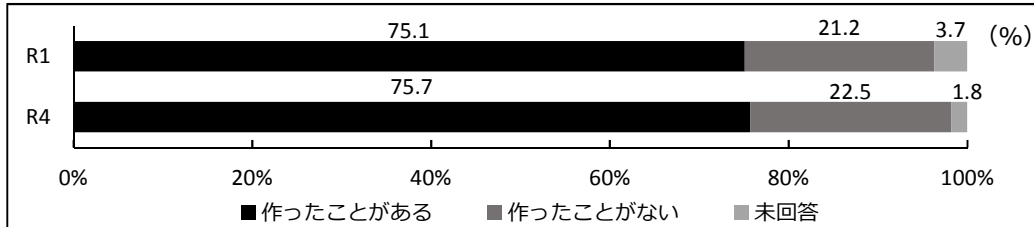
資料：食育に関する意識調査

※色付けは令和元年と比較し改善傾向の項目

(2) 家庭での郷土料理の実践状況

家庭で郷土料理を作ったことがある人は75.7%で、令和元年の75.1%から0.6%ポイントの増加でほとんど変わりありませんでした。

図表 家庭での郷土料理の実践状況



資料：食育に関する意識調査

(3) 学校や保育所等における郷土料理の継承に関する取り組みの状況

ほとんどの学校や保育所・認定こども園で給食に郷土料理が提供されていました。箸の持ち方などの食文化のマナー指導については85.4%で、令和元年より12.2ポイント減少していました。ふれあい給食やふれあい餅つきなどの地域間交流は51.2%で、令和元年より26.8ポイント減少していました。

図表 学校や保育所等における郷土料理の継承に関する取り組みの状況

取り組み	実施割合 (%)	
	R1	R4
給食での郷土料理の提供	100	95.1
箸の持ち方指導など食文化やマナーの指導	97.6	85.4
ふれあい給食やふれあい餅つきによる地域間交流	78.0	51.2

資料：学校・保育所・認定こども園の食育の推進に関する状況調査

(4) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

郷土料理教室等の開催については、新型コロナウイルス感染症流行により中止となった教室もありましたが、新たな取り組みもありました。

【取組実績】

対策	事業名または取り組み	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数
郷土料理教室等の開催	郷土料理教室	社会教育課	2	34	中止		中止	
	【新】薬草料理教室				5	52	5	52
	郷土料理教室	食生活改善推進員協議会	1	20	中止		1	30

施策3 生活習慣病予防のための食育の推進

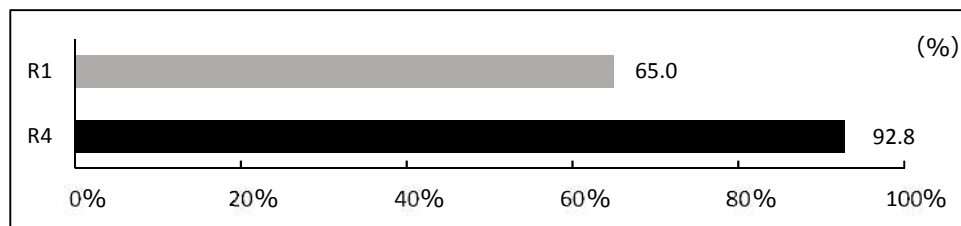
第3次島原市食育推進計画の施策3では、「生活習慣病予防のために行動を実践している人の増加」「小学5年生の「朝食を毎日食べる」人の増加」「中学2年生の「朝食を毎日食べる」人の増加」「市民の「朝食を毎日食べる」人の増加」を目標に取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
生活習慣病予防のために行動を実践している人の増加	65.0%	92.8%	A	70%以上
小学5年生の「朝食を毎日食べる」人の増加	90.4%	88.9%	C	92%以上
中学2年生の「朝食を毎日食べる」人の増加	88.4%	85.8%	C	92%以上
市民の「朝食を毎日食べる」人の増加	84.0%	81.2%	C	87%以上

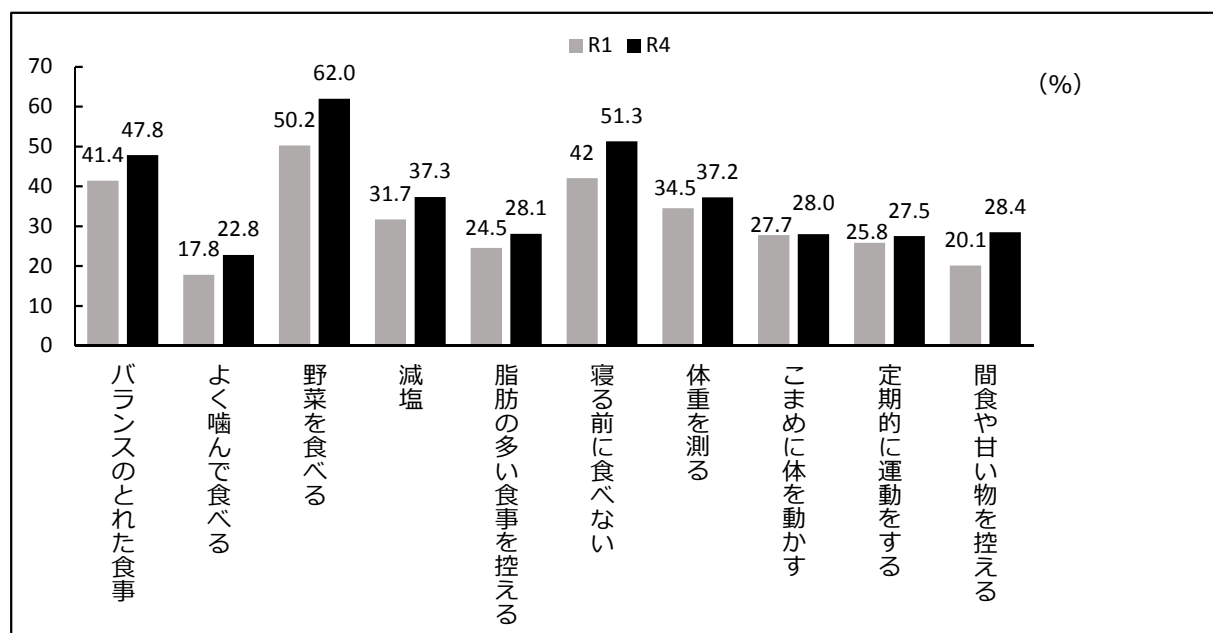
(1) 生活習慣病予防の実践行動の状況

生活習慣病予防のための行動を実践している人は92.8%で、令和元年より27.8ポイント増加していました。実践行動の内容として「野菜を食べる」が62.0%で最も多く、半数以上の人が実践していました。一方、「よく噛んで食べる」が22.8%で最も少なく、次いで、「定期的に運動する」、「こまめに体を動かす」が少ない状況でした。

図表 生活習慣病予防のための行動の実践状況



図表 生活習慣病予防の実践行動内容の状況



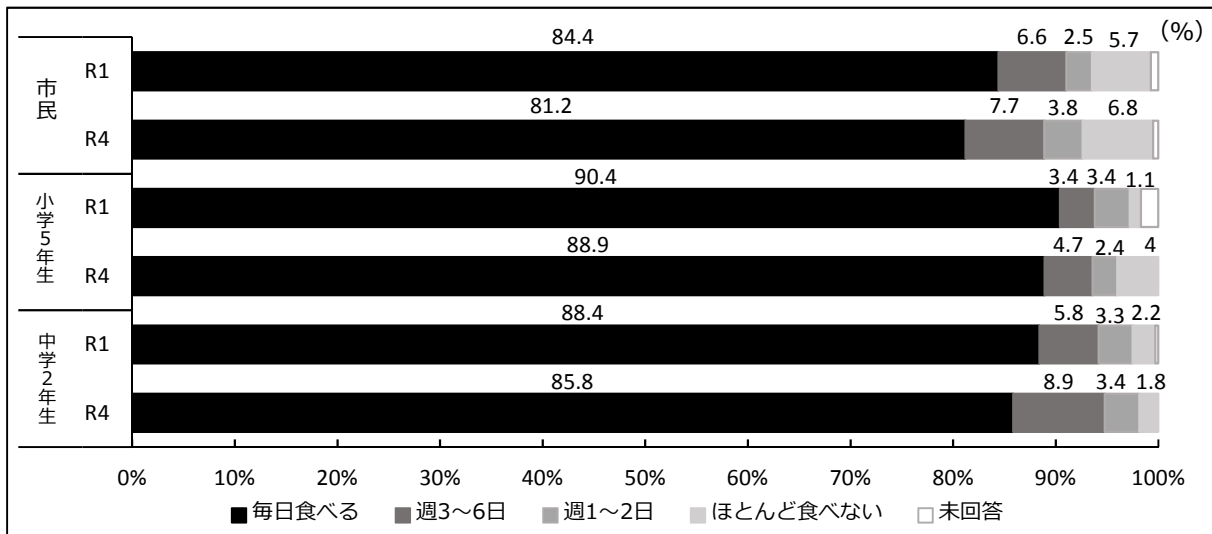
資料：食育に関する意識調査

(2) 生活習慣病予防につながる食生活の状況

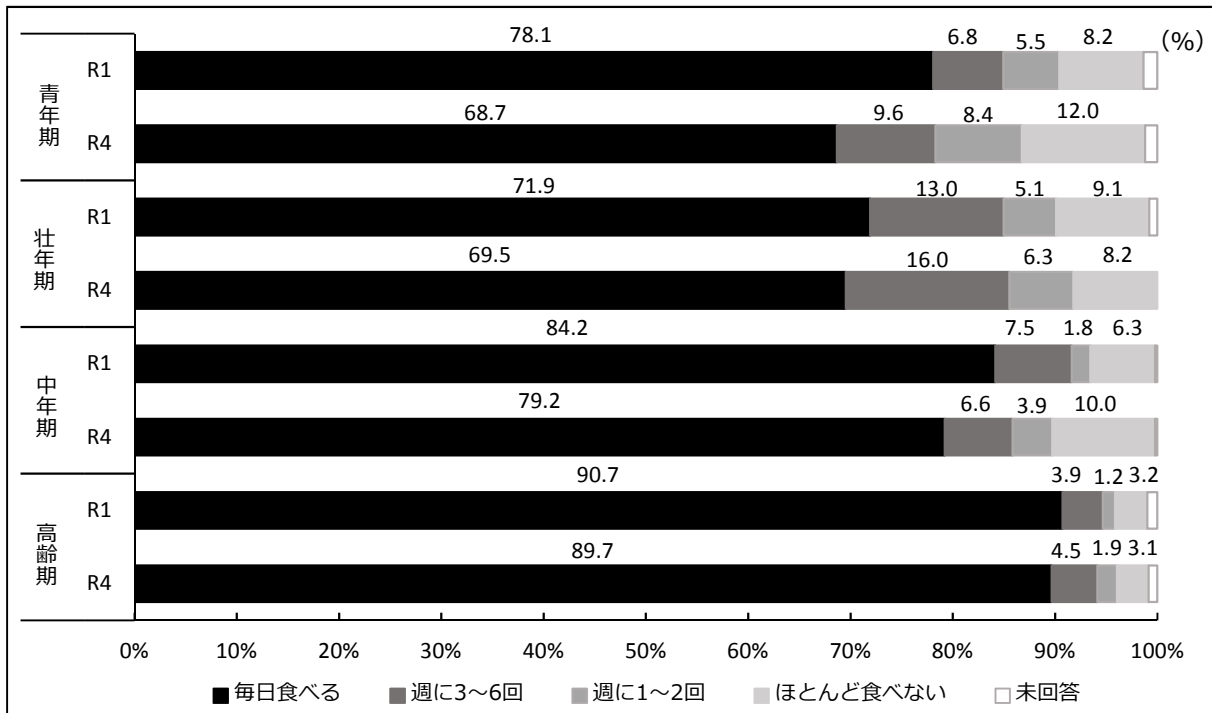
① 朝食摂取の状況

「朝食を毎日食べる」人は市民で81.2%、小学5年生で88.9%、中学2年生で85.8%であり、令和元年と比較して減少していました。世代別では、高齢期で89.7%と最も多く、青年期で68.7%と最も少ない状況でした。また、青年期から高齢期までの全世代で令和元年と比較して減少していました。

図表 市民及び小学5年生、中学2年生の朝食摂取の状況



図表 市民の朝食摂取の状況(世代別)



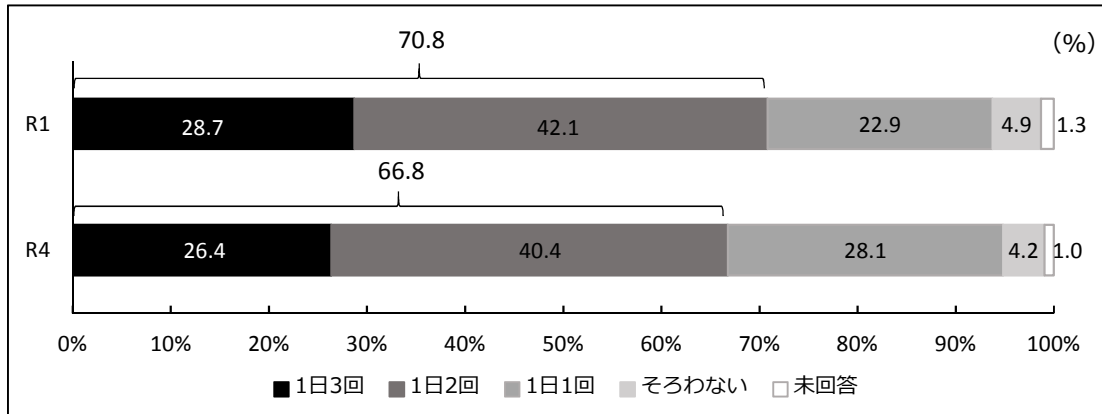
資料：食育に関する意識調査

青年期：15～24歳 壮年期：25～44歳 中年期：45～64歳 高齢期：65歳以上

② 食事のバランスに関する状況

「主食・主菜・副菜」のそろった食事を1日に2回以上そろえている人は66.8%で、令和元年の70.8%より4.0ポイント減少していました。

図表 「主食・主菜・副菜」のそろった食事の回数

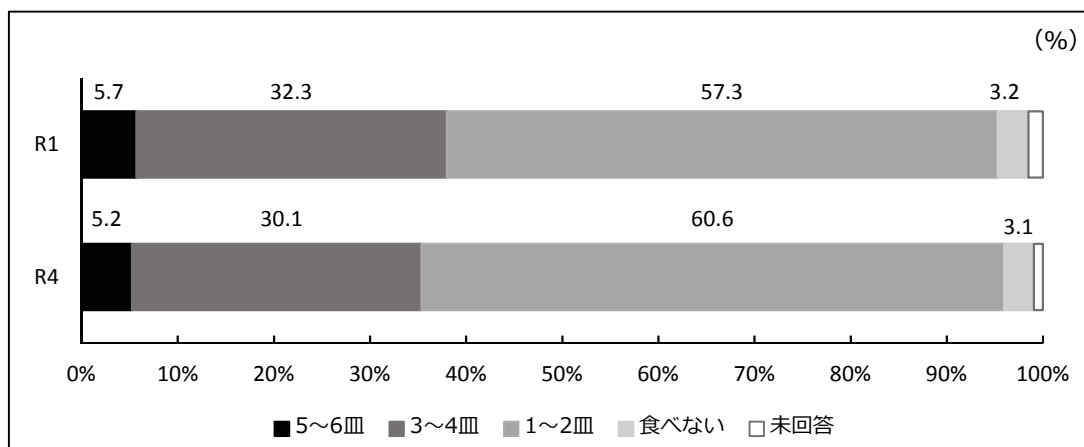


資料：食育に関する意識調査

③ 野菜摂取の状況

国が摂取目標とする1日350g以上の野菜の目安量である「1日に5~6皿の野菜料理の摂取」ができていない人は5.2%で、令和元年の5.7%より0.5ポイント減少していました。

図表 野菜摂取の状況（1日の野菜料理の皿数）



資料：食育に関する意識調査

(3) 生活習慣病と関連する健康状態に関する現状

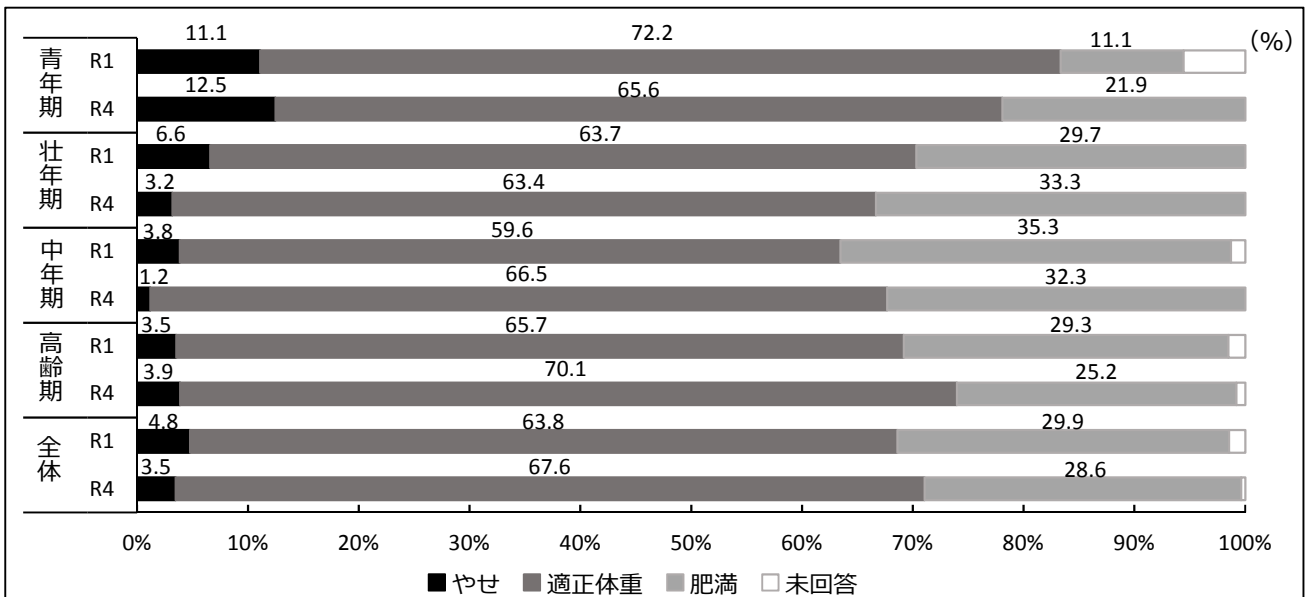
① 体格の状況

男性全体では、令和元年より「やせ」又は「肥満」の割合が減少し、「※適正体重」の割合が67.6%と3.8ポイント増加していました。一方、女性全体では、「やせ」又は「肥満」の割合が増加し、「適正体重」の割合が68.7%と3.4ポイント減少していました。

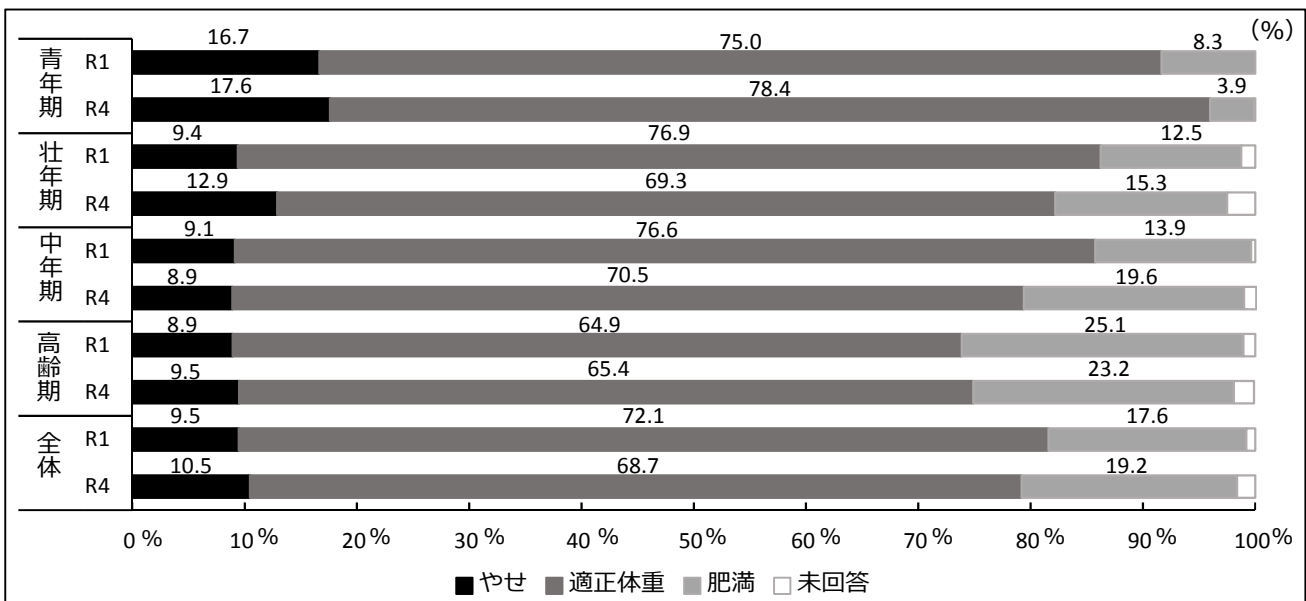
また、「肥満」の割合は、男性では壮年期の33.3%、女性では高齢期の23.2%で最も多く、「やせ」の割合は、男性、女性ともに青年期で最も多い状況でした。

※については用語集（77ページ）に記載しています。

図表 世代別体格の状況（男性）



図表 世代別体格の状況（女性）



資料：食育に関する意識調査

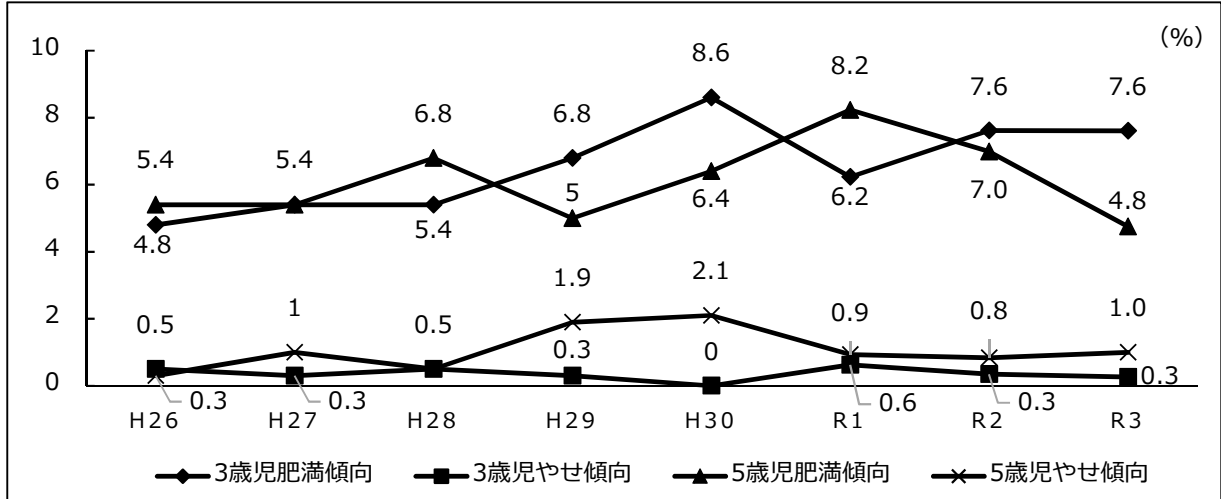
青年期：15～24歳 壮年期：25～44歳 中年期：45～64歳 高齢期：65歳以上

② 幼児期の肥満傾向とやせ傾向の状況

3歳児健診における「肥満傾向」の割合は増加しており、「やせ傾向」の割合は変化がありませんでした。

5歳児健診における「肥満傾向」の割合は減少しており、「やせ傾向」の割合は横ばいでした。

図表 3歳児健診及び5歳児健診における肥満傾向及びやせ傾向の割合



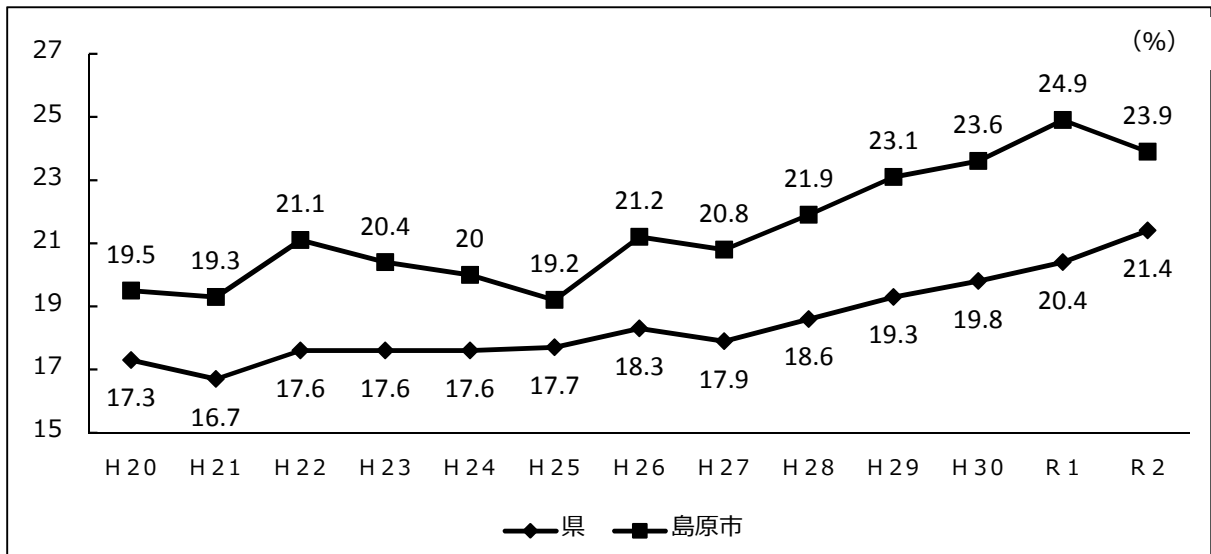
資料：島原市乳幼児健診結果

③ メタボリックシンドロームの状況

40歳～74歳の国民健康保険加入者を対象とした*特定健診の結果における*メタボリックシンドローム該当者の割合は、令和2年度はやや減少していましたが、県平均と比較して多い状況でした。

※については用語集（77・78ページ）に記載しています。

図表 メタボリックシンドロームの状況



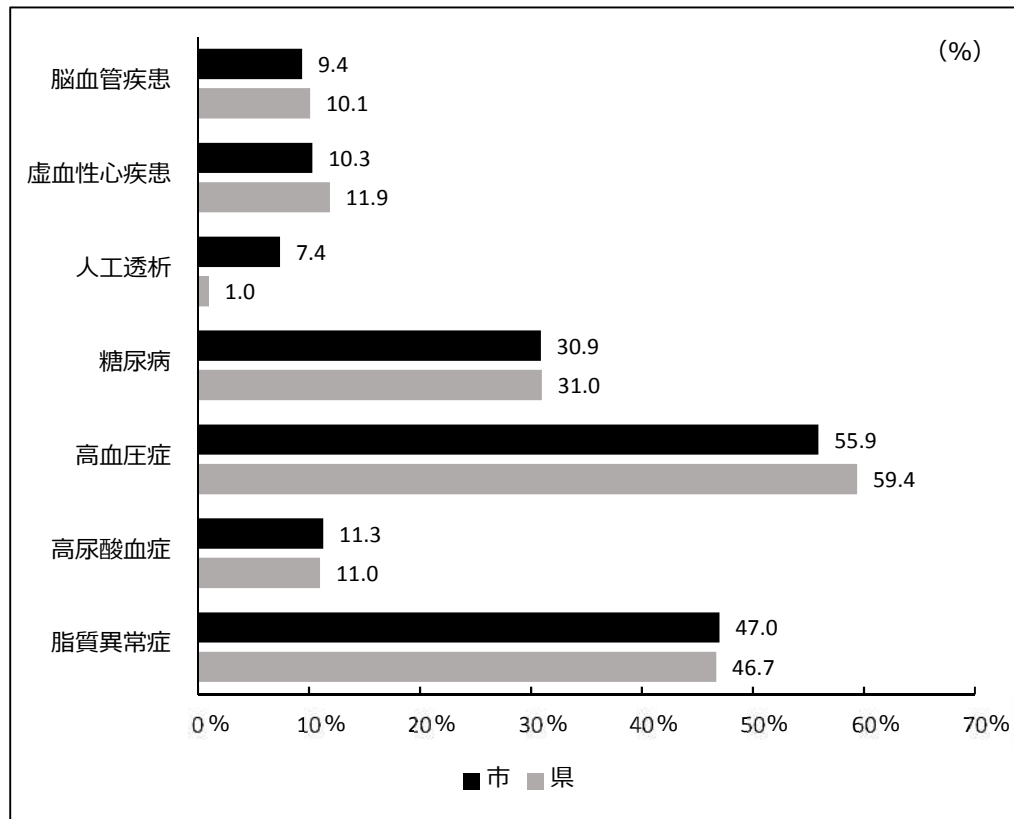
資料：国保データベースシステム (KDB)

④ 生活習慣病による病院への受診状況

令和4年5月における国民健康保険加入者の生活習慣病による病院受診状況は、高血圧症、脂質異常症、糖尿病の順に多い状況でした。

また、県と比較すると、高尿酸血症、人工透析などが多い状況でした。

図表 生活習慣病による病院への受診状況（令和4年5月診療分）



資料：国保データベースシステム（KDB）

⑤ 国民健康保険及び後期高齢者医療保険診療報酬情報による疾病件数

令和4年5月診療分の国民健康保険及び後期高齢者医療保険診療報酬情報によると、「高血圧性疾患」で病院を受診している件数が、40歳～49歳は3位、50歳～59歳は2位であり、60歳以上では1位となっています。また、糖尿病の件数も55歳以降で3位となっており、生活習慣病で病院を受診している人が多い状況でした。

また、「歯肉炎及び歯周疾患」は、平成30年と変わらず、20歳～59歳で1位であり、60歳以上でも2位となっていました。

図表 国民健康保険及び後期高齢者医療保険診療報酬情報による疾病件数（5月診療分）

順位 年齢		1位	2位	3位
20～24歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	その他消化器系疾患	屈折及び調節の障害
	R4		神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	皮膚炎及び湿疹
25～29歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	皮膚炎及び湿疹	乳房およびその他女性生殖器の疾患
	R4		その他の皮膚炎及び皮下組織の疾患	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
30～34歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
	R4		う蝕	皮膚炎及び湿疹
35～39歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	統合失調症、統合失調症型障害及びせん妄性障害	皮膚炎及び湿疹
	R4			神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
40～44歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	統合失調症、統合失調症型障害及びせん妄性障害	皮膚炎及び湿疹
	R4			高血圧性疾患
45～49歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	高血圧性疾患	統合失調症、統合失調症型障害及びせん妄性障害
	R4		統合失調症、統合失調症型障害及びせん妄性障害	高血圧性疾患
50～54歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	高血圧性疾患	統合失調症、統合失調症型障害及びせん妄性障害
	R4			統合失調症、統合失調症型障害及びせん妄性障害
55～59歳	H30	歯肉炎及び歯周疾患	高血圧性疾患	糖尿病
	R4			糖尿病
60～64歳	H30	高血圧性疾患	歯肉炎及び歯周疾患	糖尿病
	R4	高血圧性疾患		
65～69歳	H30	高血圧性疾患	歯肉炎及び歯周疾患	糖尿病
	R4			
70～74歳	H30	高血圧性疾患	歯肉炎及び歯周疾患	糖尿病
	R4			
75歳以上	H30	高血圧性疾患	歯肉炎及び歯周疾患	糖尿病
	R4			

資料：国民健康保険及び後期高齢者医療保険の疾病分類統計

(4) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

生活習慣病予防の知識の普及・啓発については、講座や教室などの回数が減少していました。朝食摂取率の向上については、広報しまばらによる啓発や朝ごはんレシピ集の作成など、非対面での取り組みが行われていました。歯周疾患の予防については、幼児期から高齢期において、それぞれの世代にあった取り組みが行われていました。

【取組実績】

対策	事業名または取り組み	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数
生活習慣病予防の知識の普及・啓発	生活習慣病予防講座	保険健康課	1	33	2	32	1	21
	栄養教室		2	51	3	50	3	27
	生活習慣改善教室		2	36	2	24	1	25
	特定保健指導		—	84.4%	—	86.7%	—	40.9%
	健診事後指導		3	152	1	18	中止	
	食生活の改善普及活動	食生活改善推進員協議会	4	501	4	201	4	177
小児期からの肥満予防対策	小児生活習慣病予防教室	保険健康課	中止		1	7	中止	
	小児生活習慣病予防検診	学校教育課	1	18	—	—	—	—
朝食摂取率の向上	広報しまばらによる啓発	保険健康課	0	—	1	—	0	—
	朝ごはんレシピ集の作成	食生活改善推進員協議会	—	—	—	5,000部	—	—
歯周疾患の予防	フッ素塗布 (母子健診)	保険健康課 歯科医師会	63	1,788	39	908	25	578
	【新】フッ素塗布 (歯科医院)		/	/	/	/	—	383
	フッ化物洗口 (幼児)	保険健康課 保育所・認定こども園	24 (園)	88.9%	24 (園)	88.9%	24 (園)	88.9%
	フッ化物洗口 (児童・生徒)	学校教育課 小中学校	14 (校)	100%	14 (校)	100%	14 (校)	100%
	【新】妊産婦歯科健診	保険健康課 歯科医師会	/	/	/	/	—	85
	国保歯科健診		—	68	—	63	—	40
	後期高齢保険歯科健診		—	70	—	66	—	72
	健康教育 (歯科)	保険健康課	24	367	10	146	12	130
	成人歯科相談		18	192	17	345	20	319
	お口の健康まつり	歯科医師会	1	345	中止		中止	

施策4 ライフステージやライフスタイルに応じた食育の推進

第3次島原市食育推進計画の施策4では、「朝食の摂取についての情報を提供する」を目標に、ライフステージを「妊娠期」「乳幼児期」「学童期」「青年期」「壮年期」「中年期」「高齢期」の7つに区分し、取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
朝食の摂取についての情報を提供する	-	10回	A	3回以上

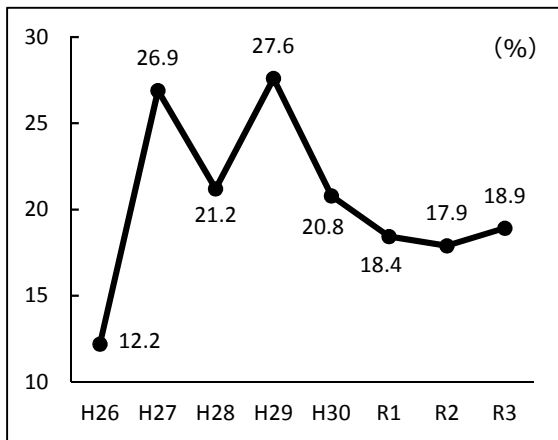
(1) ライフステージ別の状況

① 妊娠期

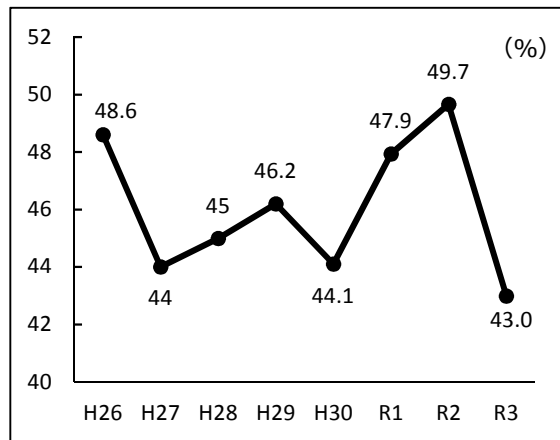
妊娠期は、身体の変化に伴って、バランスのとれた食事の実践により適切な体重増加を保つことが、妊婦の健康及び胎児の発育にとって大切です。妊娠期の健康状態について「妊娠中の体重増加」「貧血」「高血圧」「高血糖」の状況をまとめました。

島原市の妊婦一般健康診査の結果によると、妊娠中の体重増加については、12 kg以上体重が増加した人は18.9%で約5人に1人という状況でした。貧血については43.0%で、約2人に1人という状況でした。また、高血圧については4.4%で減少傾向であり、血糖値が高い人については14.0%で横ばいでした。

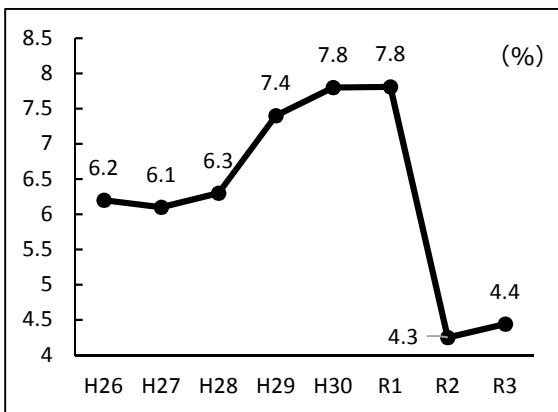
図表 妊娠中の体重増加 (12 kg以上)



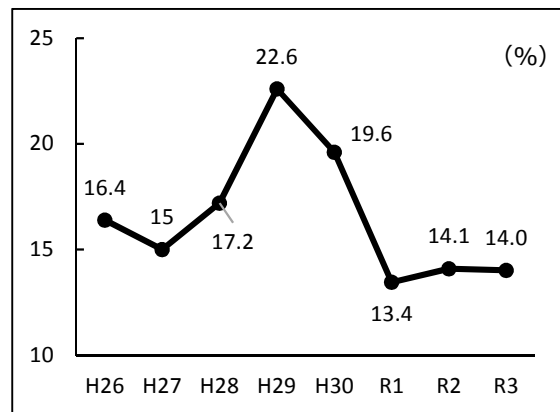
図表 貧血の状況 (*ヘモグロビン 11 mg/dl 未満)



図表 高血圧の状況(140/90mmHg以上)



図表 高血糖の状況 (*50gOGTT140mg/dl以上)



資料：島原市妊婦一般健康診査結果
※については用語集（75・77ページ）に記載しています。

② 乳幼児期・学童期

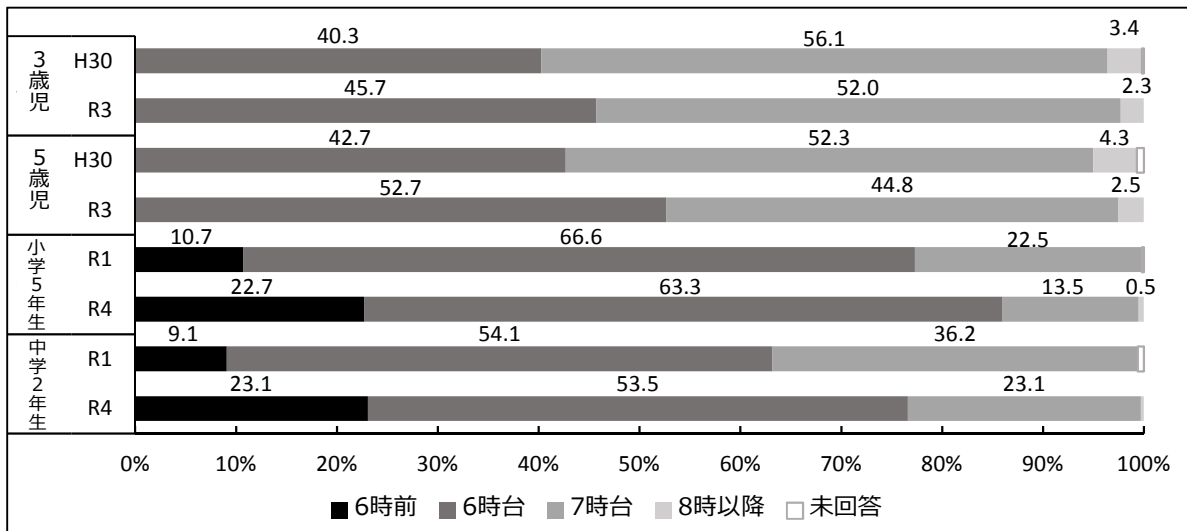
乳幼児期・学童期は成長期であり、健やかな成長を促すためには、食事を含む生活習慣の確立が必要です。「早寝早起き朝ごはん」の生活リズム確立のため、子どもの起床時間と就寝時間について現状をまとめました。また、むし歯は食事のとり方に影響を与えることから子どもの口腔の状態についても現状をまとめました。

②－1 起床時間と就寝時間

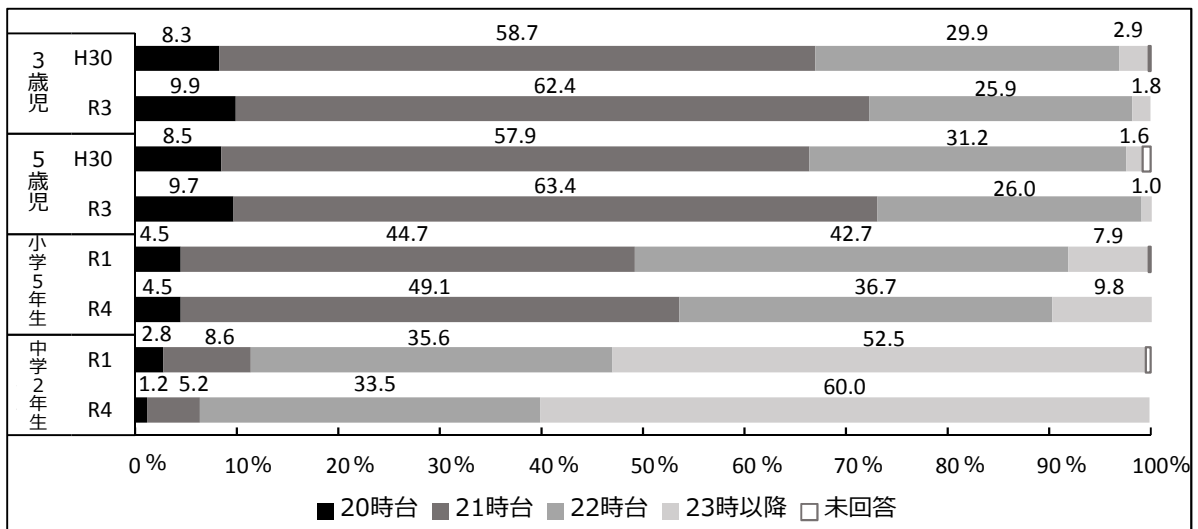
令和3年度の乳幼児健診結果によると、起床時間は3歳児で7時台の52.0%、5歳児で6時台の52.7%が最も多い状況でした。就寝時間について22時以降に就寝している割合は、3歳児で27.7%、5歳児で27.0%で、平成30年度より減少していました。

食育に関する意識調査によると、起床時間は6時台で最も多く小学5年生で63.3%、中学2年生で53.5%でした。就寝時間について22時以降に就寝している割合は、小学生では46.5%で令和元年より4.1ポイント減少していました。中学生では22時以降に就寝している割合が93.5%で令和元年より5.4ポイント増加していました。さらに23時以降に寝る生徒は60.0%と令和元年より7.5ポイント増加していました。

図表 起床時間



図表 就寝時間



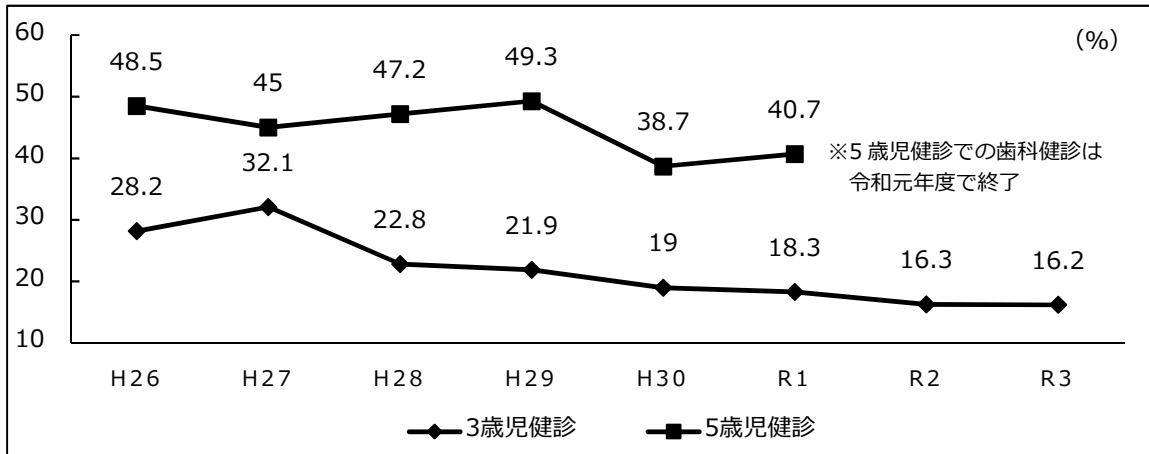
資料：島原市乳幼児健診結果及び食育に関する意識調査

②-2 口腔の状況

むし歯の状況は、令和3年度の乳幼児健診結果によると3歳児で16.2%で減少傾向でした。

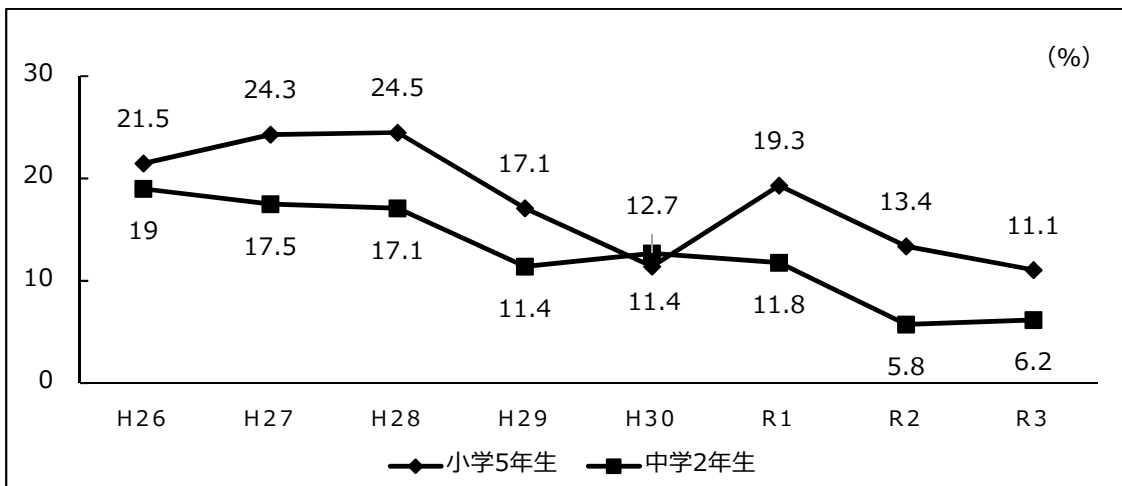
小中学生では、令和3年度の学校保健統計によると未処置歯のある小学5年生は11.1%、中学2年生は6.2%で減少傾向でした。

図表 3歳児健診及び5歳児健診におけるむし歯の状況



資料：島原市乳幼児健診結果

図表 小学5年生及び中学2年生の未処置歯の状況



資料：学校保健統計

③青年期～高齢期

青年期～高齢期は、食育に関する意識調査の結果から、「食育への関心」など7つの項目について、ライフステージ別の状況を比較しました。

<p style="text-align: center;">食育への関心</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ライフステージ</th> <th>R1 (%)</th> <th>R4 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青年期</td> <td>60.3</td> <td>65.1</td> </tr> <tr> <td>壮年期</td> <td>76.7</td> <td>78.9</td> </tr> <tr> <td>中年期</td> <td>74.7</td> <td>66.9</td> </tr> <tr> <td>高齢期</td> <td>76.6</td> <td>76.9</td> </tr> </tbody> </table>	ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)	青年期	60.3	65.1	壮年期	76.7	78.9	中年期	74.7	66.9	高齢期	76.6	76.9	<p>食育への関心は、令和元年と比べて、中年期以外のライフステージで増加しており、青年期で65.1%と最も少なく、壮年期で78.9%と最も多い状況でした。</p>
ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)														
青年期	60.3	65.1														
壮年期	76.7	78.9														
中年期	74.7	66.9														
高齢期	76.6	76.9														
<p style="text-align: center;">食育活動への参加</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ライフステージ</th> <th>R1 (%)</th> <th>R4 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青年期</td> <td>9.6</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td>壮年期</td> <td>15.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>中年期</td> <td>12.9</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>高齢期</td> <td>12.7</td> <td>2.2</td> </tr> </tbody> </table>	ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)	青年期	9.6	7.2	壮年期	15.0	0.6	中年期	12.9	1.1	高齢期	12.7	2.2	<p>食育活動への参加は、令和元年と比べて、全ライフステージで減少しており、壮年期で0.6%と最も少なく、青年期で7.2%と最も多い状況でした。</p>
ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)														
青年期	9.6	7.2														
壮年期	15.0	0.6														
中年期	12.9	1.1														
高齢期	12.7	2.2														
<p style="text-align: center;">生活習慣病予防のための行動の実践</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ライフステージ</th> <th>R1 (%)</th> <th>R4 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青年期</td> <td>49.3</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>壮年期</td> <td>62.1</td> <td>88.3</td> </tr> <tr> <td>中年期</td> <td>67.2</td> <td>92.5</td> </tr> <tr> <td>高齢期</td> <td>79</td> <td>97.2</td> </tr> </tbody> </table>	ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)	青年期	49.3	88	壮年期	62.1	88.3	中年期	67.2	92.5	高齢期	79	97.2	<p>生活習慣病予防のための行動を実践している人は、令和元年と比べて、全ライフステージで増加しており、高齢期で97.2%と最も多い状況でした。</p>
ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)														
青年期	49.3	88														
壮年期	62.1	88.3														
中年期	67.2	92.5														
高齢期	79	97.2														
<p style="text-align: center;">農林水産体験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ライフステージ</th> <th>R1 (%)</th> <th>R4 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青年期</td> <td>27.4</td> <td>71.1</td> </tr> <tr> <td>壮年期</td> <td>26.1</td> <td>55.1</td> </tr> <tr> <td>中年期</td> <td>27.6</td> <td>59.4</td> </tr> <tr> <td>高齢期</td> <td>19.8</td> <td>61.4</td> </tr> </tbody> </table>	ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)	青年期	27.4	71.1	壮年期	26.1	55.1	中年期	27.6	59.4	高齢期	19.8	61.4	<p>農林水産体験は、令和元年と比べて、全ライフステージで増加しており、青年期で71.1%と最も多い状況でした。</p>
ライフステージ	R1 (%)	R4 (%)														
青年期	27.4	71.1														
壮年期	26.1	55.1														
中年期	27.6	59.4														
高齢期	19.8	61.4														

朝食を毎日食べる	朝食を毎日食べる人は、令和元年と比べて、全ライフステージで減少しており、青年期で68.7%と最も少なく、高齢期で89.7%と最も多い状況でした。															
<p>1日に2回以上「主食・主菜・副菜」をそろえた食事</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢期</th> <th>R1 (%)</th> <th>R4 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青年期</td> <td>75.3</td> <td>66.3</td> </tr> <tr> <td>壮年期</td> <td>64.4</td> <td>55.4</td> </tr> <tr> <td>中年期</td> <td>71.0</td> <td>64.4</td> </tr> <tr> <td>高齢期</td> <td>74.3</td> <td>73.6</td> </tr> </tbody> </table>	年齢期	R1 (%)	R4 (%)	青年期	75.3	66.3	壮年期	64.4	55.4	中年期	71.0	64.4	高齢期	74.3	73.6	<p>1日に2回以上「主食・主菜・副菜」をそろえた食事をする人は、令和元年と比べて、全ライフステージで減少しており、壮年期で55.4%と最も少なく、高齢期で73.6%と最も多い状況でした。</p>
年齢期	R1 (%)	R4 (%)														
青年期	75.3	66.3														
壮年期	64.4	55.4														
中年期	71.0	64.4														
高齢期	74.3	73.6														
<p>野菜摂取</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢期</th> <th>R1 (%)</th> <th>R4 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青年期</td> <td>95.9</td> <td>92.8</td> </tr> <tr> <td>壮年期</td> <td>96.4</td> <td>96.5</td> </tr> <tr> <td>中年期</td> <td>96.6</td> <td>94.5</td> </tr> <tr> <td>高齢期</td> <td>97.2</td> <td>97.2</td> </tr> </tbody> </table>	年齢期	R1 (%)	R4 (%)	青年期	95.9	92.8	壮年期	96.4	96.5	中年期	96.6	94.5	高齢期	97.2	97.2	<p>野菜摂取は、令和元年と比べてほとんど変化はなく、青年期で92.8%と最も少なく、高齢期で97.2%と最も多い状況でした。</p>
年齢期	R1 (%)	R4 (%)														
青年期	95.9	92.8														
壮年期	96.4	96.5														
中年期	96.6	94.5														
高齢期	97.2	97.2														

青年期：15～24歳 壮年期：25～44歳 中年期：45～64歳 高齢期：65歳以上

(2) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

ライフステージに合わせた取り組みが行われていました。新型コロナウイルス感染症の流行により、すべてのライフステージの取り組みにおいて、中止したり回数が減少していましたが、妊娠期の「両親学級」や学童期の「お魚料理教室」など実績が増加している取り組みもありました。

【取組実績】

	対策	事業名または 取り組み	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
				回数	人数	回数	人数	回数	人数
妊娠期	食生活や生活習慣についての学習機会の提供	両親学級	保険健康課	11	21	10	38	9	51
乳幼児期	離乳食やアレルギー等、食事や栄養についての情報提供及び相談の機会の提供	乳幼児相談		33	50	32	32	25	26
		離乳食教室	11	125	10	91	5	67	
		アレルギー教室	1	3	2	5	中止		
	親子で食事や軽食を食べる機会の提供	育児サークル わくわく交流会 親育ち講座	こども課	54	1,205	47	947	49	841
				1	140	中止		2	124
				22	194	7	22	14	194
学童期	料理体験機会の提供	親子料理教室	食生活改善 推進員協議会	17	839	1	80	0	0
		お魚料理教室		4	144	4	131	4	180
青年期	ホームページや広報しまばらなどを通じた情報の提供	ホームページでのレシピ紹介	保険健康課	0	-	1	-	0	-
		広報しまばらでのレシピ紹介	食生活改善 推進員協議会	12	-	12	-	12	-
壮年期	健診を受ける機会の提供	若年者健診	保険健康課	-	213	-	200	-	150
	食生活の改善の取り組みの実践、継続の支援	いきいき健康ポイント		-	1,050	-	1,316	-	1,189
中年期	特定健診の受診率向上	特定健診	保険健康課	-	46.4%	-	40.8%	-	44.0%
	食生活等についての知識の普及	公民館講座	社会教育課	8	114	中止		1	11
		女性学級		7	159	-		中止	
		男性料理教室	食生活改善 推進員協議会	3	35	1	9	-	-
	生涯骨太クッキング	1	40	1	16	1	21		
高齢期	食生活等についての知識の普及	高齢者学級	社会教育課	5	198	中止		中止	
		高齢者ふれあいサロン	保険健康課	16	282	6	75	7	109
		高齢者ふれあいサロン等での食生活改善の啓発	食生活改善 推進員協議会	54	1,337	5	172	25	299

施策5 食の循環や環境に配慮した食育の推進

第3次島原市食育推進計画の施策5では、「学校・保育所・認定こども園での野菜等の栽培体験活動の実施の増加」「学校・保育所・認定こども園での料理体験の増加」「食品ロス削減について「作りすぎない」人の増加」「食品ロス削減について「野菜の廃棄を少なくする工夫」に取り組む人の増加」を目標に取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
学校・保育所・認定こども園での野菜等の栽培体験活動の実施の増加	83.0%	97.6%	A	86%以上
学校・保育所・認定こども園での料理体験の増加	85.4%	43.9%	D	87%以上
食品ロス削減について「作りすぎない」人の増加	75.6%	44.6%	D	78%以上
食品ロス削減について「野菜の廃棄を少なくする工夫」に取り組む人の増加	62.9%	27.8%	D	66%以上

(1) 食育体験活動

① 野菜等栽培体験の実施状況

野菜等栽培体験は、保育所・認定こども園、小中学校全体で97.6%実施されており、令和元年より14.6ポイント増加していました。

図表 野菜等栽培体験の実施状況

	R1		R4	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
保育所・認定こども園	26	96.3	26	96.3
小中学校	8	57.1	14	100
全体	34	83.0	40	97.6

資料：保育所・認定こども園・学校の食育の推進に関する状況調査

② 親子料理教室等体験活動の実施状況

親子料理教室等体験活動は、保育所・認定こども園、小中学校全体で43.9%実施されており、令和元年より41.5ポイント減少していました。

図表 親子料理教室等体験活動の実施状況

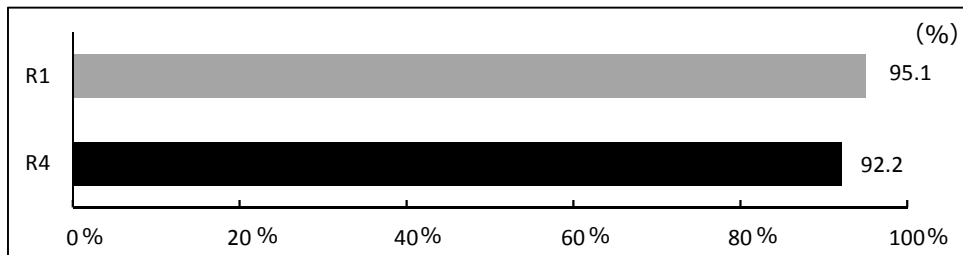
	R1		R4	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
保育所・認定こども園	25	92.6	15	55.6
小中学校	10	71.4	3	21.4
全体	35	85.4	18	43.9

資料：保育所・認定こども園・学校の食育の推進に関する状況調査

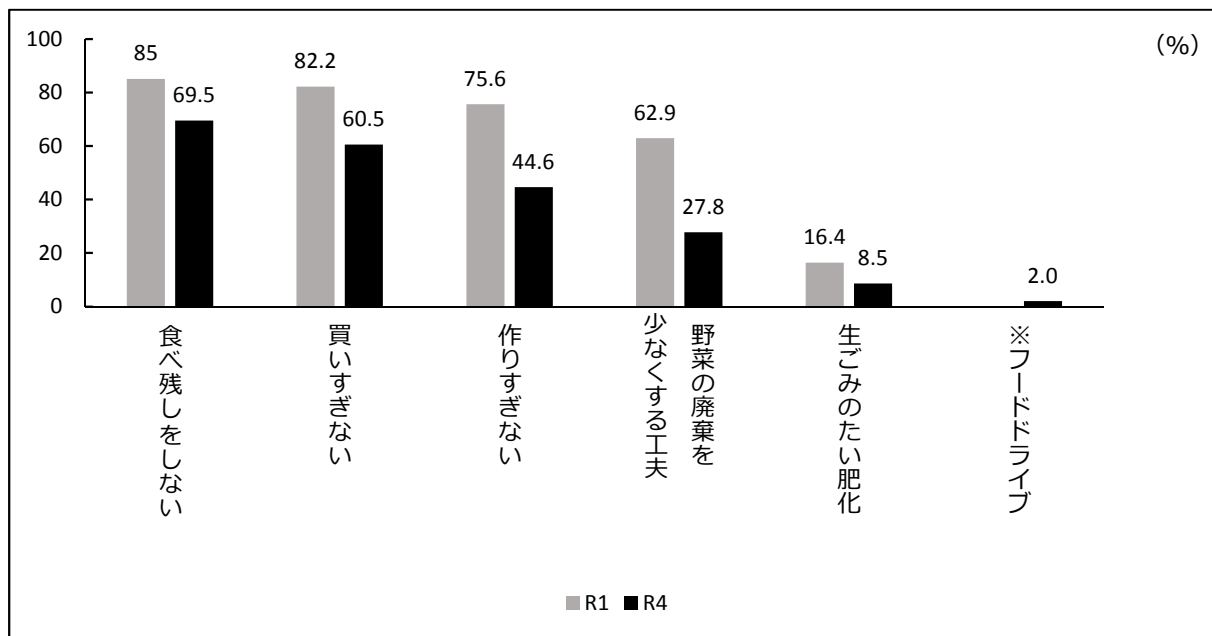
(2) 食品ロスに関する取り組みの状況

食品ロス削減に取り組む市民は92.2%で令和元年より2.9ポイント減少していましたが、取り組み内容については、「食べ残しをしない」が69.5%で最も多く、「生ごみのたい肥化」に取り組む人は、8.5%と少ない状況です。「野菜の廃棄を少なくする工夫」に取り組む人は27.8%で令和元年より35.1ポイント減少しており、最も減少幅が大きい状況でした。

図表 食品ロスに関する取り組みの実施状況



図表 食品ロスに関する取り組み内容



資料：食育に関する意識調査

※新たに追加した質問項目

※については用語集（77ページ）に記載しています。

(3) 保育所・認定こども園・学校の給食における取り組みの状況

保育園・認定こども園・学校での給食において、残食調査など残食を減らす取り組みは、全体の97.6%で実施されており、令和元年より14.7ポイント増加していました。

図表 給食における残食を減らす取り組み

給食における残食を減らす取り組み	R1		R4	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
保育所・認定こども園	21	77.8	26	96.3
小中学校	13	92.9	14	100
全体	34	82.9	40	97.6

資料：保育所・認定こども園・学校の食育の推進に関する状況調査

(4) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

食育体験活動の機会の提供については、回数及び人数が減少している取り組みがありました。また、「食品ロス」の削減に向けた啓発については、取り組みを継続して実施していました。

【取組実績】

対策	事業名または取り組み	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数
食育体験活動の機会の提供	舞岳山荘の農業体験	農林課	1	810	1	810	1	775
	生ごみたい肥化推進事業	環境課	7	1,430	4	1,112	2	650
	エコクッキング	食生活改善推進員協議会	5	309	1	12	-	-
「食品ロス」の削減に向けた啓発	広報しまばら等での普及啓発		0	-	1	-	0	-
	生ごみ減量化推進事業	環境課	生ごみ処理機	3台	生ごみ処理機	3台	生ごみ処理機	9台
			たい肥化容器	18個	たい肥化容器	34個	たい肥化容器	28個



舞岳山荘の農業体験（農林課）



生ごみたい肥化推進事業（環境課）

施策6 食の安全・安心のための食育の推進

第3次島原市食育推進計画の施策6では、「アレルギー表示を確認する人の増加」「食事の前に手洗いをする市民の増加」を目標に取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
アレルギー表示を確認する人の増加	12.9%	16.3%	A	15%以上
食事の前に手洗いをする市民の増加	66.9%	79.5%	A	70%以上

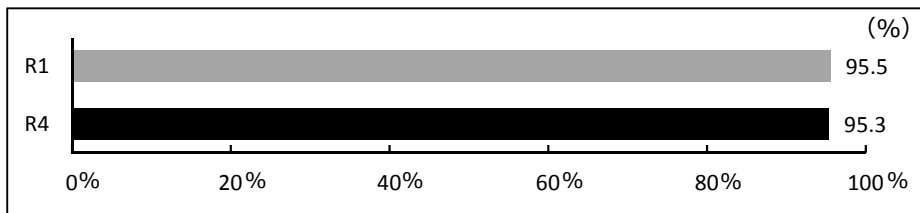
(1) 食の安全・安心に関する取り組みの状況

食の安全・安心のための行動を実践している人は、95.3%で令和元年とほとんど変化はありませんでした。

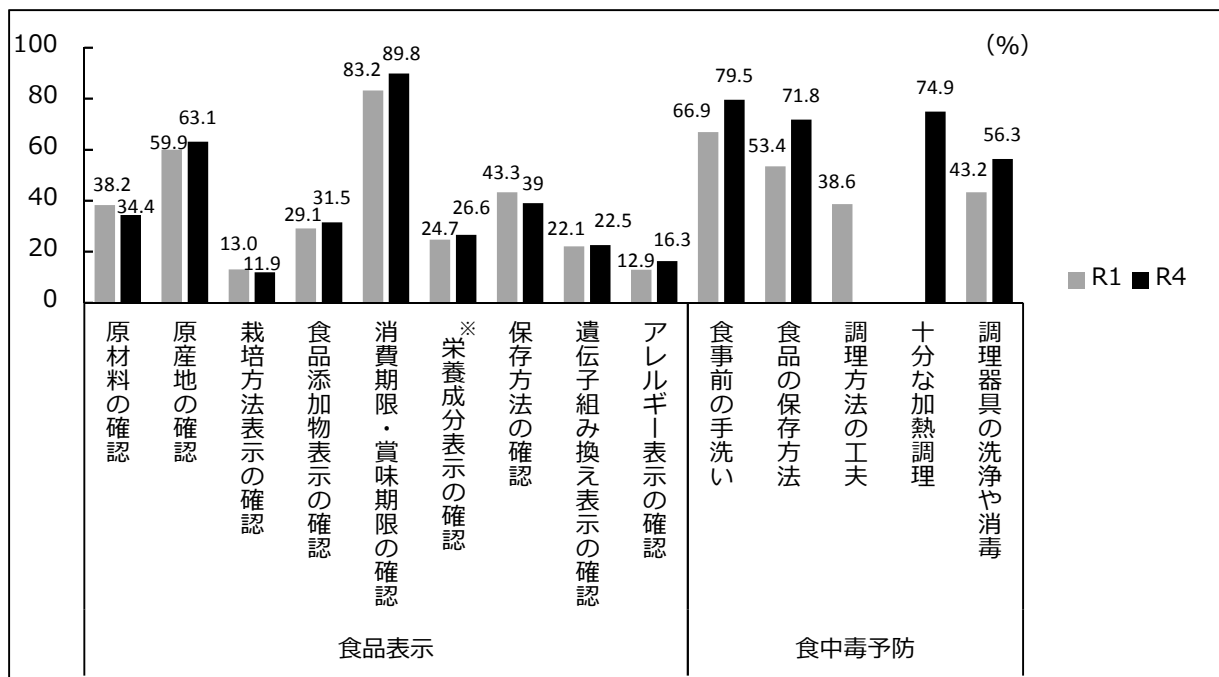
※食品表示の確認のうち、「※消費期限・※賞味期限の確認」を実践している人が最も多く89.8%で令和元年より6.6ポイント増加していました。

食中毒の予防に関しては、「食事の手洗い」を実践している人が最も多く79.5%で令和元年より12.6ポイント増加していました。

図表 食品の安全・安心のための行動を実践している人



図表 食の安全・安心に関する取り組みの内容



資料：食育に関する意識調査

※については用語集(75・76ページ)に記載しています。

(2) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

食の安全・安心に関する情報の提供や食中毒予防のための実践行動に向けた啓発及び情報の提供については、広報紙を活用した取り組みが行われていました。

【取組実績】

対策	事業名または 取り組み	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数
食の安全・ 安心に関する 情報の提供	栄養教室	保険健康課	-	-	1	17	-	-
	広報しまばらでの啓発 (※食物アレルギー)		0	-	1	-	0	-
食中毒予防 のための実 践行動に向 けた啓発及 び情報の提 供	広報しまばらでの啓発 (食中毒予防)	環境課	1	-	2	-	0	-

※については用語集（76ページ）に記載しています。

施策7 生産者と消費者の交流の促進と地産地消の推進

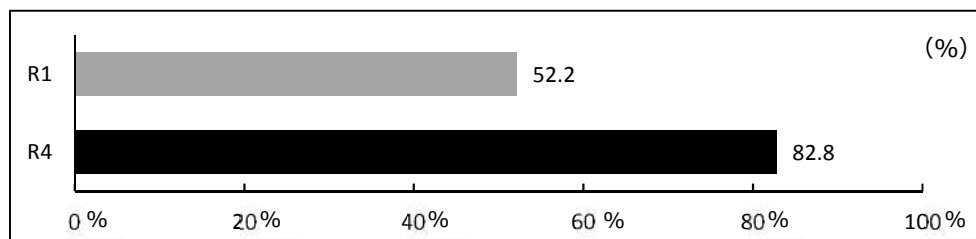
第3次島原市食育推進計画の施策7では、「生産者と消費者の交流に関心がある市民の増加」「学校給食における県産品の使用重量の割合の増加」「地産地消に取り組む市民の増加」を目標に取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
生産者と消費者の交流に関心がある市民の増加	27.9%	66.2%	A	30%以上
学校給食における県産品の使用重量の割合の増加	73.3%	74.6%	C	75%以上
地産地消に取り組む市民の増加	52.2%	82.8%	A	55%以上

(1) 地産地消への取り組みの状況

地産地消の取り組みを実施している人は82.8%で令和元年より30.6ポイント増加していました。

図表 地産地消への取り組みの状況

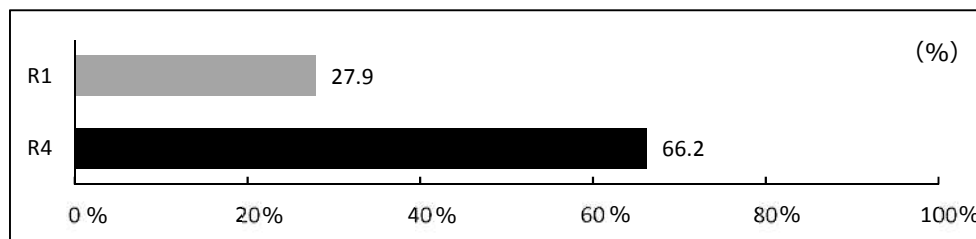


資料：食育に関する意識調査

(2) 生産者と消費者の交流への関心

生産者と消費者の交流に関心のある人は、66.2%で令和元年と比較して38.3ポイント増加していました。

図表 生産者と消費者の交流への関心



資料：食育に関する意識調査

(3) 給食における地産地消の状況

給食における地産地消の取り組みは、令和元年と変わらず、すべての保育所・認定こども園・学校で実施されていました。

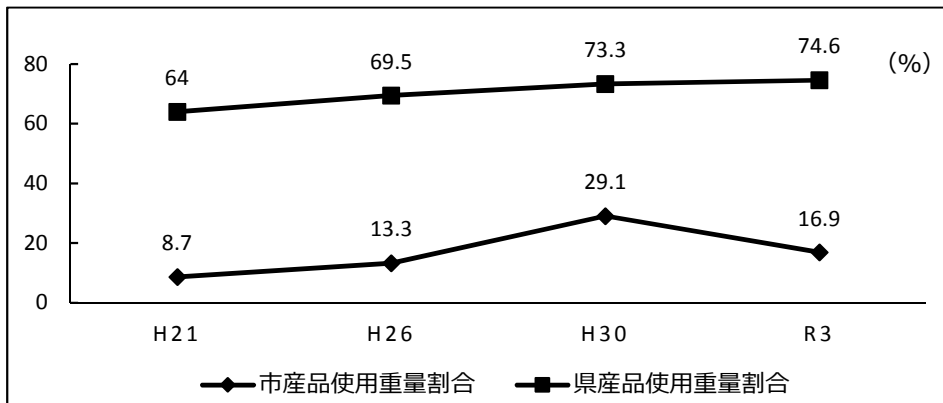
また、学校給食における市産品の使用重量割合は、16.9%で平成30年より12.2ポイント減少していました。一方、県産品の使用重量割合は、74.6%で平成30年より1.3ポイント増加しており、給食において地産地消が推進されていました。

図表 給食における地産地消の状況

取り組み	実施割合 (%)	
	R1	R4
給食で地産地消に取り組んでいる保育所・認定こども園・学校	100	100

資料：保育所・認定こども園・学校の食育の推進に関する状況調査

図表 学校給食における地場産品の使用重量割合の状況



資料：学校給食における地場産物使用状況調査

(4) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

生産者と消費者の交流機会の提供や地産地消の推進については、イベントの開催により取り組みが行われていました。

【取組実績】

対策	事業名または取り組み	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数
生産者と消費者の交流機会の提供	島原ふるさと産業まつり	商工振興課	1	21,000	1	9,000	1	10,500
	ふるさと特産市		2	8,000	2	1,800	-	-
地産地消の推進	島原薬草フェア		1	800	中止		-	-
	タコ飯の販売	耕地水産課	1	2,500	1	2,097	1	1,549

施策8 共食の推進

第3次島原市食育推進計画の施策8では、「1週間当たりの朝食と夕食の共食回数の増加」、「週に10回以上共食の機会がある市民の増加」を目標に取り組みを展開してきました。その現状についてまとめました。

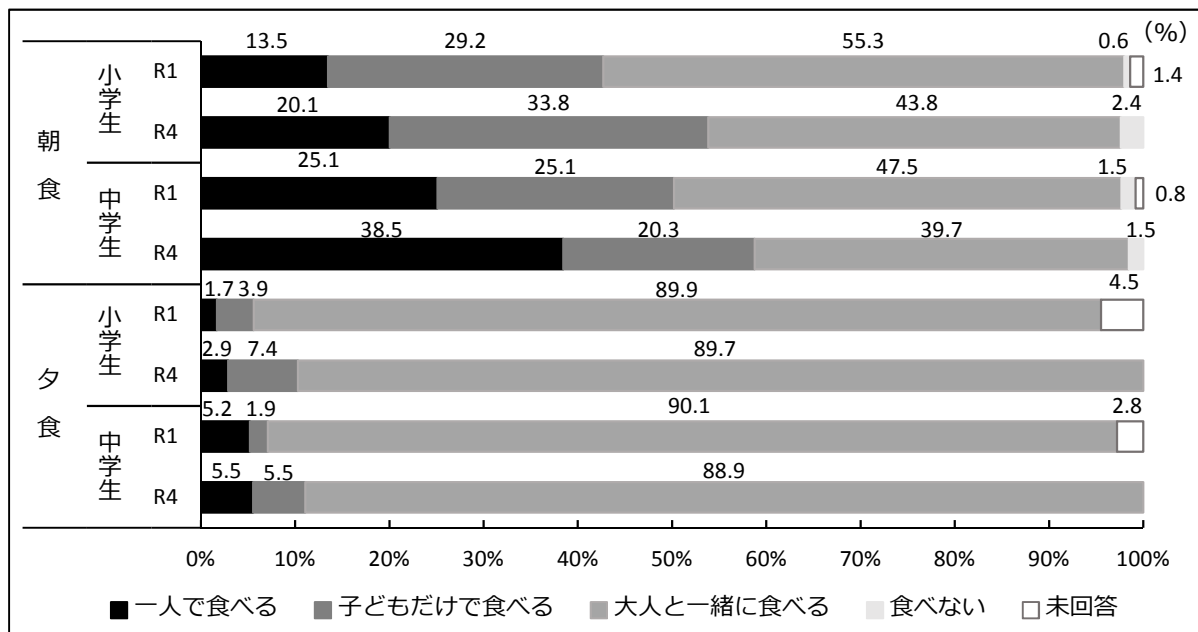
数値目標項目	策定時	現状値		中間目標
1週間当たりの朝食と夕食の共食回数の増加（小学生）	10.2回	10.2回	C	11回以上
1週間当たりの朝食と夕食の共食回数の増加（中学生）	11.0回	9.3回	D	11.5回以上
週に10回以上共食の機会がある市民の増加	58.7%	49.0%	D	62%以上

(1) 子どもの共食の状況

子どもの共食の状況について、朝食を「大人と一緒に食べる」小学生は43.8%で令和元年より11.5ポイント減少、中学生は、39.7%で令和元年より7.8ポイント減少していました。

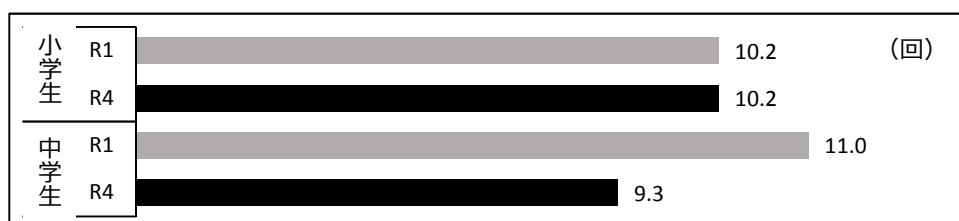
1週間当たりの共食の回数については、小学生は10.1回で令和元年と変化していませんでしたが、中学生は9.3回で令和元年より1.7回減少していました。

図表 小学生及び中学生の朝食と夕食における共食の状況



資料：食育に関する意識調査

図表 1週間当たりの共食の回数



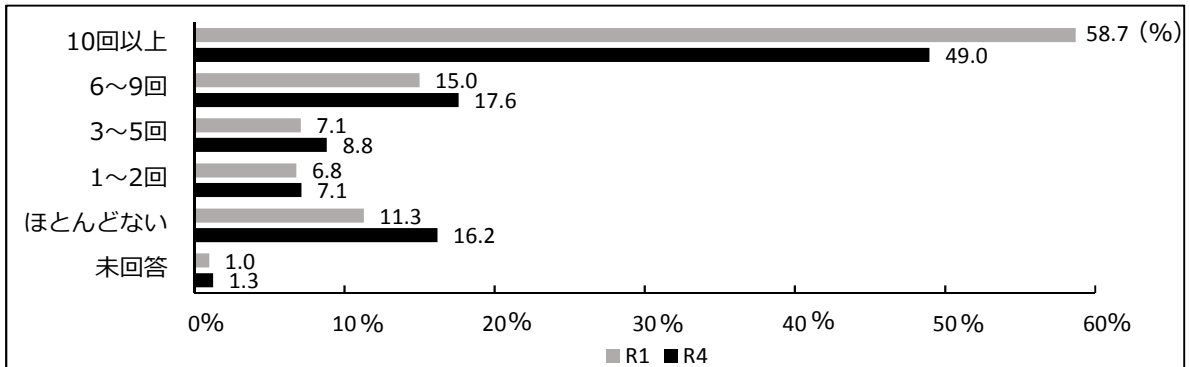
資料：食育に関する意識調査

(2) 市民の共食の状況

市民の共食の状況については、1週間に10回以上共食の機会がある人は49.0%で令和元年より9.7ポイント減少していました。また、共食の機会が「ほとんどない」人が16.2%で令和元年より4.9ポイント増えており、共食の機会が減少しているようです。

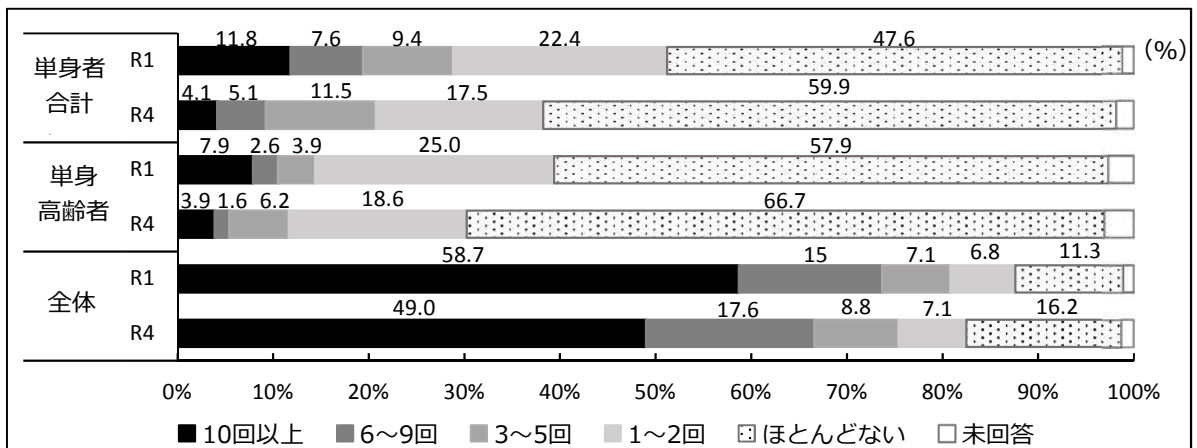
世帯別でみると単身者の共食割合が低く、特に高齢者の単身世帯では、共食の機会が「ほとんどない」人は66.7%で令和元年より8.8ポイント減少していました。

図表 市民の共食の状況（1週間当たりの共食回数）



資料：食育に関する意識調査

図表 世帯別共食の状況



資料：食育に関する意識調査

(3) 地域・学校・行政・その他の関係機関の取り組み状況

新型コロナウイルス感染症の流行により、地域における共食の機会の提供は減少していましたが、新たに市内事業所等による「子ども食堂」の立ち上げなどの取り組みもあります。家庭での共食の推進については、継続して取り組みが行われていました。

【取組実績】

対策	事業名	担当	策定時 (R1)		R2 実績		R3 実績	
			回数	人数	回数	人数	回数	人数
地域における共食の機会の提供	一人暮らしの食事会 (R2~配食サービス)	社会福祉協議会	25	1,910	8	842	6	871
家庭での共食の推進	乳幼児健診等での啓発	保険健康課	32	699	28	683	31	798

その他 新型コロナウイルス感染症と食環境に関する現状

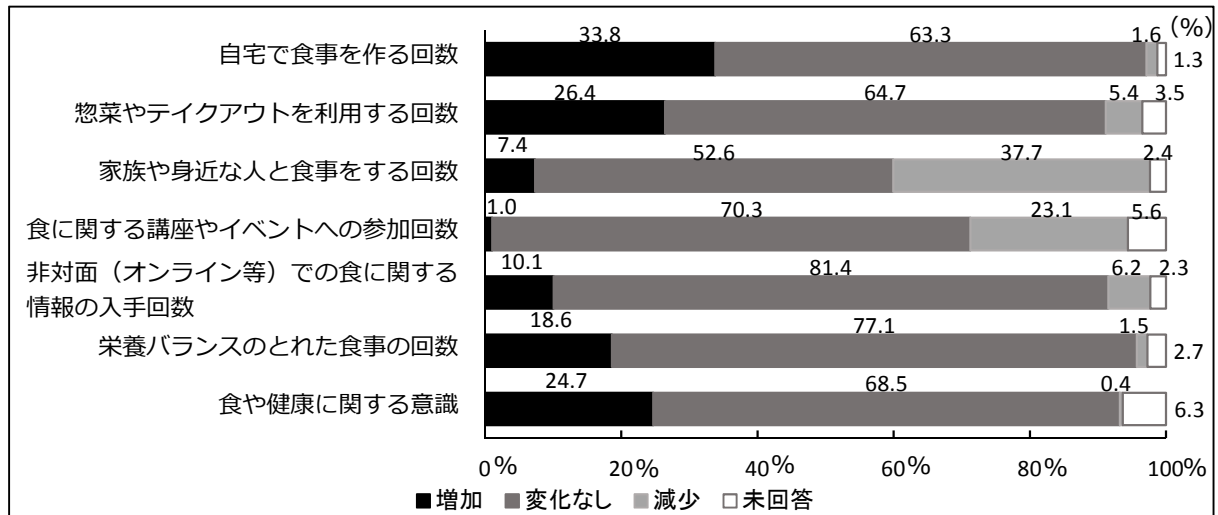
新型コロナウイルス感染症の流行により、「新しい生活様式」の実践が求められています。そこで新型コロナウイルス感染症による食環境の変化についてまとめました。

(1) 新型コロナウイルス感染症による食環境の変化の現状

新型コロナウイルス感染症による食環境の変化の現状については、「自宅で食事を作る回数」や「惣菜やテイクアウトを利用する回数」が以前より増加したと回答した人が多く、「家族や身近な人と食事をする回数」が以前より減少したと回答した人は37.7%でした。

また、「食に関する講座やイベントへの参加回数」が以前より減少したと回答した人は23.1%で、「非対面（オンライン等）での食に関する情報の入手回数」が以前より増加したと回答した人は10.1%でした。

図表 新型コロナウイルス感染症による食環境の変化の現状



資料：食育に関する意識調査

(2) 新型コロナウイルス感染症による食育の取り組みへの影響

新型コロナウイルス感染症の流行が、食育の取り組みについて様々な影響を及ぼしています。特に、集合型のイベントや講座、体験活動等の食育の取り組みは減少していました。

図表 新型コロナウイルス感染症の流行により中止または減少した取り組み（R1～R3 実績）

	取り組みの減少数 (中止または回数減少)	減少した取り組み内容
市主催イベント	6回/8回 (75%減)	食育フェスタ・福祉まつり・糖尿病予防のつどい・お口の健康まつり・わくわく交流会・島原葉草フェア
市主催講座	10回/17回 (58.8%減)	郷土料理教室・両親学級・乳幼児相談・育児サークル・親育ち講座・健康教育(歯科)・公民館講座・女性学級・高齢者学級・高齢者ふれあいサロン
市主催以外の取り組み	6回/9回 (66.7%減)	郷土料理教室・親子料理教室・男性料理教室・高齢者ふれあいサロン・エコクッキング・あかね会

また、保育所・認定こども園・学校においても「ふれあい給食」等の地域間交流や料理体験などの取り組みは減少していました。

第3節 課題の整理

第2節までの現状及び「第3次島原市食育推進計画」の中間評価をもとに、本市の食育推進の課題について整理しました。

施策	現状	課題
1. 地域・学校・行政における食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 食育への関心は73.3%で令和元年より1.6ポイント減少し、中間目標値85%以上を達成できなかった 食育の取り組み活動への参加は2.4%で令和元年より10.8ポイント減少し、中間目標値15%以上を達成できなかった イベントの中止や講座の縮小などにより、食育の関心や取り組む機会が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 食育への関心を高め、食育の取り組みへとつなげるためのアプローチが必要
2. 郷土料理や地域の食文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> 食経験について、「手延べそうめん」「具雑煮」は多く、一方で「がねだき」や「ガンバの湯引き」「いぎりす」が少ない 家庭で郷土料理を作る人は75.7%で令和元年より0.6ポイント増加したが、中間目標値77%以上を達成できなかった 保育所・認定こども園・学校での給食における郷土料理の提供は95.1%で令和元年より4.9ポイント減少 地域間交流は51.2%で令和元年より26.8ポイント減少 郷土料理教室や地域間交流の中止により食文化の継承の機会が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土料理への関心を高め、家庭での実践を促すことが必要 給食等における郷土料理の提供を継続し、子どもたちが郷土料理に触れる機会の提供が必要 地域の食文化を伝えるため地域間交流を促すことが必要
3. 生活習慣病予防のための食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防の実践行動は92.8%で令和元年より27.8ポイント増加し、中間目標値70%以上を達成できた 3歳児健診での「肥満傾向」の割合が増加 朝食摂取について、小学生、中学生、市民全体で「朝食を毎日食べる」割合が減少し、中間目標値を達成できなかった 歯肉炎及び歯周疾患で病院を受診する人が多い 講座や教室の取り組みは減少していたが、普及啓発について新たな取り組みも行われていた 	<ul style="list-style-type: none"> 小児期からの肥満対策が必要 朝食摂取について、朝食の大切さを啓発し、朝食を食べる人を増やす取り組みが必要 生活習慣病と歯周疾患は相互に影響しあうため、歯周疾患予防の啓発が必要
4. ライフステージやライフスタイルに応じた食育の推進	<p>【妊娠期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4割以上の方が貧血傾向 高血圧や高血糖の人は減少傾向 <p>【乳幼児期・学童期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就寝時間が年齢とともに遅延 むし歯がある子どもは減少傾向 <p>【青年期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育への関心が他の世代より低い 朝食を毎日食べる人が他の世代より少ない <p>【壮年期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性で肥満の割合が33.3%で他の世代より高い バランスの良い食事をとる人が他の世代より低い <p>【中年期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女ともに肥満の割合が2番目に多い 生活習慣病予防のための行動を実践している人が高齢期に次いで多い <p>【高齢期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための行動を実践している人が他の世代より多い 共食回数が少ない人が他の世代より多い 	<p>【妊娠期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊娠中の食生活の実践方法について啓発が必要 <p>【乳幼児期・学童期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムの定着と確立のための啓発が必要 <p>【青年期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育への関心を高め食育に取り組むきっかけづくりが必要 朝食摂取の大切さの啓発が必要 <p>【壮年期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の発症及び重症化予防についての知識の普及啓発が必要 <p>【中年期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための行動を実践している人が継続できる支援が必要 <p>【高齢期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための行動を実践している人が継続できる支援が必要 共食の機会の提供が必要

施策	現状	課題
5. 食の循環や環境に配慮した食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・保育所・認定こども園での野菜の栽培体験の実施率は97.6%で令和元年より14.6ポイント増加し、中間目標値86%以上を達成できた。 ・学校・保育所・認定こども園での料理の体験活動の実施率は43.9%で令和元年より41.5ポイント減少し、中間目標値87%以上を達成できなかった ・食育体験活動の機会提供の取り組みが減少 ・食品ロス削減に取り組む市民は、92.2%で令和元年より2.9ポイント減少 ・「作りすぎない」に取り組む人は44.6%で令和元年より31.0ポイント減少し、中間目標値78%以上を達成できなかった ・「野菜の廃棄を少なくする工夫」に取り組む人は27.8%で令和元年より35.1ポイント減少し、中間目標値66%以上を達成できなかった ・残食を減らす取り組みは、97.6%の保育所・認定こども園・学校の給食で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食育体験活動が継続できる支援や体制づくりが必要 ・食品ロス削減のための取り組みの普及が必要 ・保育所・認定こども園・学校の給食において残食を減らす取り組みの継続が必要
6. 育心のための食の安全・安心の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・消費期限や賞味期限を確認する市民は多く、アレルギーの表示を確認する人も16.3%で令和元年より3.4ポイント増加し、中間目標値15%以上を達成できた ・食中毒予防の取り組みとして、食事の前に手洗いをする人が79.5%で令和元年より12.6ポイント増加し、中間目標値70%以上を達成できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全・安心のために食品表示の確認が習慣化するよう啓発が必要 ・食中毒予防の取り組みが習慣化するよう啓発が必要
7. 生産者と消費者の交流の促進と地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消に取り組む人は82.8%で令和元年より26.8ポイント増加し、中間目標値55%以上を達成できた ・生産者と消費者の交流に関心がある人は66.2%で令和元年より38.3ポイント増加し、中間目標値30%以上を達成できた ・給食における地産地消の取り組みはすべての保育所・認定こども園・学校で実施 ・学校給食での県産品重量割合は74.6%で平成30年より1.3ポイント増加したが、中間目標値75%以上を達成できなかった ・生産者と消費者の交流の機会の提供や地産地消の推進における取り組みは、コロナ禍でも継続して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の取り組みが継続できるよう啓発が必要 ・給食における地産地消が継続できるよう働きかけが必要
8. 共食の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・週に10回以上共食の機会がある市民が49.0%で令和元年より9.7ポイント減少し、中間目標値62%以上を達成できなかった ・1週間当たりの朝食と夕食の共食の回数が小学生で10.2回で令和元年と変わらず、中間目標値11回以上を達成できず、中学生で9.3回で令和元年より1.7回減少し、中間目標値11.5回以上を達成できなかった ・高齢者単身世帯では、共食の機会が「ほとんどない」人が66.7%で令和元年より8.8ポイント増加 ・共食機会の提供の取り組みが減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における共食機会の提供が必要 ・家庭での共食が増加するよう啓発が必要
その他 新型コロナウイルス感染症と食環境	<ul style="list-style-type: none"> ・以前と比較し、「自宅で食事を作る回数」や「惣菜やテイクアウトを利用する回数」が増加したと回答した人が多い ・以前と比較し、約4人に1人が「食に関する講座やイベントへの参加回数」が減少したと回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・食環境の変化に応じた食育に関する情報の提供やデジタル化に対応した食育の推進が必要